KIORITZ

取 扱 説 明 書

共立クローラスプレーヤ
CHS360
CHS560

⚠ 警　告

ご使用前に、必ず取扱説明書をよく読んで正しく作業してください。
取扱説明書の指示内容を守ってください。
守らなかった場合は、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。

重要なお知らせ

共立クローラスプレーヤをお買い上げいただき、ありがとうございます。

● この取扱説明書は、機械の正しい扱いかたと、簡単なお手入れおよび守っていただきたい安全に関する事項について説明しています。
- 本書に記載されている仕様や解説あるいは説明のために例にあげられている図や内容は、改良のため予告なしに変更することがあります。
- 取扱説明書の内容は製品の標準装備を基本に構成していますが、特別注文品（オプション）やアクセサリを使用する場合も含まれます。
- 単位はＳＩ単位を使用しています。（　）内は参考値ですので数%の換算誤差がある場合もあります。

● ご使用まえにこの取扱説明書をよくお読みいただき安全で快適な作業をしてください。
- お読みになった後も身近な所に保管し、いつでも読めるようにしてください。
- また、この機械を貸与または譲渡される場合は、この取扱説明書を機械といっしょにお渡しください。
- 本書では、安全上重要な事項を⚠で示し、次のように表示しています。
- 必ず守ってください。

● 機械の使用目的について
- この機械は日本国内でのみ使用してください。
- この機械は液剤散布作業に使用し、それ以外には使用しないでください。
- 機械を使用目的以外の作業に使用したり、改造しないでください。また、その場合には保証の対象になりません。
（詳細は保証書をご覧ください。）
- この機械で公道は走行できません。
- なお、この機械の品質・性能上あるいは安全のために、使用部品を変更することがあります。その際には本書の内容および図などの一部が、機械と一致しない場合がありますのであらかじめご了承願います。

⚠ 危　険

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負うことになるものです。

⚠ 警　告

その警告に従わなかった場合、死亡または重傷を負う可能性があるものです。

⚠ 注　意

その警告に従わなかった場合、ケガを負う恐れのあるものです。

丝に左斜線の入ったこの記号は、表示されているものが全て禁止されていることを表わします。

重　要

重要として囲まれた文章は、この取扱説明書で説明されている機械の使用、点検、保守・保管に関する注意事項です。

目 次

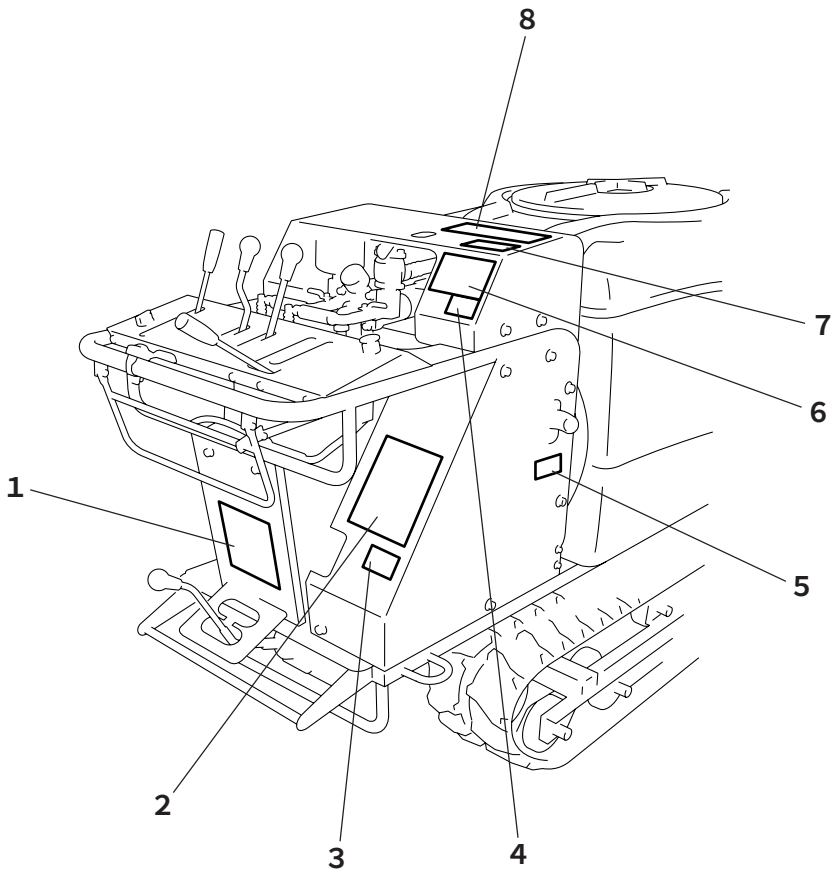
警告表示ラベルの意味 …… 2
正しい作業のために …… 4
各部の名称 …… 12
輸送・移動時の注意 …… 16
使用準備 …… 17
作業を行なう …… 20
散布終了後の手入れ …… 24
点検・整備 …… 25
故障対策 …… 30
長期格納整備 …… 32
仕　様 …… 33

⚠ 注　意

- この説明書は、いつでも読めるように、紛失、汚損の恐れのない、すぐ取出せる所に必ず保管してください。
- この説明書が損傷により読めなくなった場合、紛失した場合は、販売店より新しく説明書を購入し、常に参照できるよう保管してください。
- 本書で解説している機械を貸与する場合､借りて作業をする人に､この説明書を読ませ、充分な指示、訓練を行なった後、この本書とともに機械を貸与してください。
- 製品を譲渡される場合は、この本書を製品に添付してお渡しください。
- ご不明なことやお気付きのことがございましたら、販売店にご相談ください。

警告表示ラベルの意味

- 取扱説明書で解説されている機械には、３ページの表の「警告表示ラベル」が貼付してあります。ご使用前に確認し、ラベルの意味を理解してください。
- ラベルが摩滅したり破損して内容が確認できなくなった場合や､はがれて紛失した場合は､販売店から新しくラベル（３ページの警告表示ラベル一覧のもの）を購入し、下図の指示番号位置に貼り、常にラベルが確認できる状態を維持してください。



CHS360/560-04

警告表示ラベル

1

⚠ 警　　告

下記警告を守らないと　けがをすることがあります

- 畦　縁石等の障害物を乗り越える時や　トラックへの積み降ろしは前後方向に機体が大きく揺れることがあるので　低速で走行すること
- 積載物は荷崩れしないように　確実にロープを掛けて固定すること
- いかなる故障も修理してから使用のこと
- マフラーは高温となります　触れないこと
- カバー類を外しての使用や改造はしないこと
- 密閉した室内では　エンジンを始動しないこと　排気ガスは有毒です　換気をして始動すること
- 作業服　作業帽　作業靴を着用すること
- 走行時　左右の傾斜角度は　１５°以下とする
- 傾斜地での旋回は　逆方向に旋回することがあるので　注意すること
- トラックへの積み降ろしは　平坦で堅固な場所で　登坂角１５°以下となるあゆみ板を使い　低速で行わないと転落する恐れがあります　また　搭載後トラックに確実に固定すること

X505-001540

X505-001540

2

⚠ 注　　意

下記注意を守らないと　けがをすることがあります

- 本機は ほ場内作業機です　公道での運行はできません
- エンジンを始動する時は　必ず走行クラッチレバーの走行が切り　ブレーキが入りであることを確認すること
- 急な発進　停止　旋回はしないこと
- 駐車する時は　平坦で堅固な場所に駐車し　ブレーキを入りにすること
- 走行時　進行方向に人がいないことを確認すること
- 始業点検や定期点検を行ってください　又その時はエンジン停止して行うこと
- 燃料キャップは確実に締めること　又こぼれた燃料は　ふき取ること
- 傾斜地では　転倒に注意し　低速で走行すること
- 下り坂では　エンジンブレーキをかけ　常に走行クラッチレバーが操作できるように運転すること
- 格納は　エンジンが冷え　燃えやすいものが近くにない所にすること

X505-001520

X505-001520

3

⚠ 警告

このカバー内には回転物があります。手や足を入れるとけがをします。

X505-001550

X505-001550

4

⚠ 危険

後進時後方に障害物があると転倒や障害物にはさまれて重大な事故につながります。

X505-001530

X505-001530

5

⚠注意　高温部に注意してください

890157-55630

6

⚠ 危険

●傾斜地で走行クラッチを切ると本機が傾斜を下ることがあり危険です。
走行クラッチの操作は平坦地で行ってください

●軟弱な路肩を走行すると転倒　転落して重大事故につながります。

●傾斜地や凹凸地で高速走行すると転倒転落して重大事故につながります。

●本機を改造して使用すると重大事故につながります。

X505-001510

X505-001510

7

⚠ 注意

使用の前には取扱説明者を読み操作方法、注意事項を熟知してください。
実作業をする前に平らで広い見通しの良い場所で操作方法を練習してください。
使用者以外の人に貸与譲渡する場合は、取扱い方や注意事項を説明し、取扱説明書を添付し読むよう指導してください。

X505-001680

X505-001680

8

⚠注　意

- 保護マスク　保護メガネ　保護衣　ゴム手袋　ゴム長靴を用意し、安全な服装で作業してください。
- 作業後は手足顔などをよく洗いうがいをしてください。
- 作業中に少しでも体調がおかしくなったときは直ちに作業を中止し、医師の診断を受けてください。
- 運転中ノズルに近づかないでください。薬液をあびるおそれがあります。
- 作業機には乗らないでください。おもわぬけがをする場合があります。
- フタは確実にしめてください。薬液をあびるおそれがあります。
- ブームの操作は周囲の傷害物に気を付けてゆっくりと行ってください。
- 回転部にはぜったいにさわらないでください。けがをするおそれがあります。
- 凍結のおそれがある時はポンプを空運転して水抜きを行ってください。（約１分）

X505-000730

X505-000730

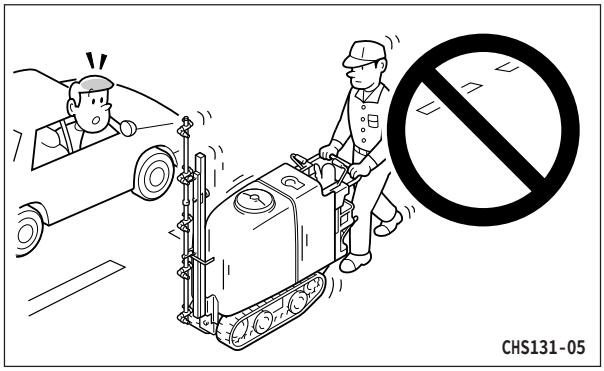
正しい作業のために



⚠ 警　告

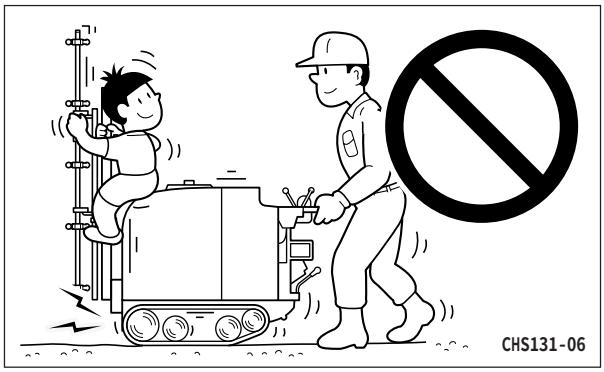
このような人は作業をしないでください。

- **酒気をおびた人**
- **妊娠している人**
- **１６才未満の人**
- **未熟練者**
- **過労・病気・薬物の影響、その他の理由により正常な作業ができない人**



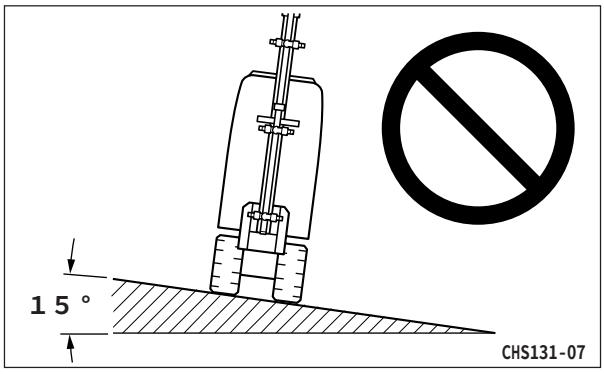
⚠ 警　告

本機で一般道路を走らないでください。



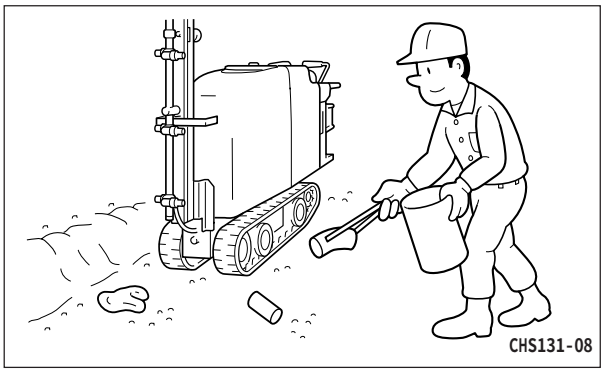
⚠ 警　告

本機に人を乗せて走行しないでください。



⚠ 危　険

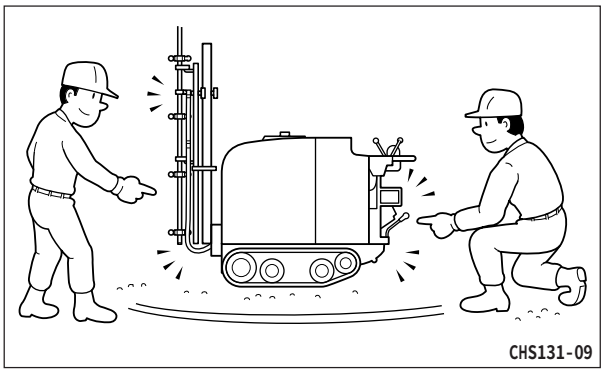
１５°以上の傾斜地での走行はしないでください。
転倒することがあります。



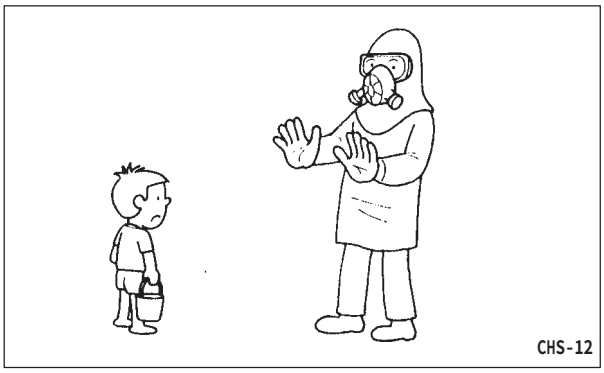
作業前の点検

● 作業場所の点検は必ず行ない、ゴミ、空きカンなど作業の障害になるものを取除いてください。

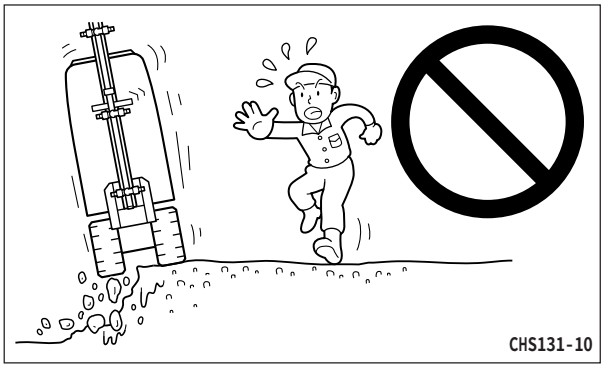
● 水を多く含んだ軟弱地は旋回能力が落ちると共に､本機内部に泥が入り込み故障の原因となりますので走行は行なわないでください。



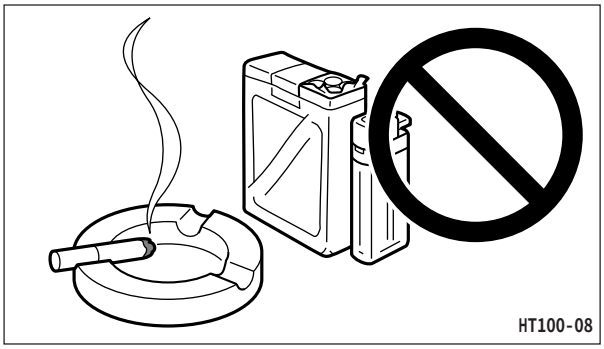
● ホース、その他の部品がきちんと取付けられているか確認してください。



● 子供や作業に関係のない人が近くにいないことを確認してください。



● 本機を不安定な場所や転倒の恐れがある傾斜地に置かないでください。



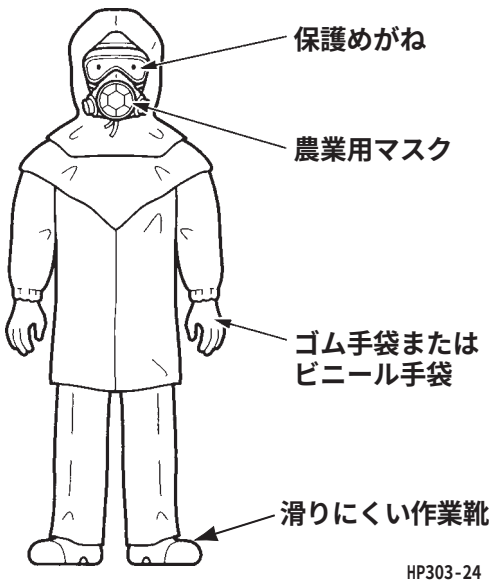
⚠ 警　告

燃料を扱うときは、絶対にタバコを吸ったり、火気を近づけないでください。

⚠ 注　意

農薬使用上の注意

- 散布時は、農業用マスク、手袋、長ズボン、長袖の作業衣などを着用してください。
  農薬に直接触れないよう注意してください。
- 作業後は手足、顔などを石けんでよく洗い、うがいをするとともに洗眼してください。
- 農薬が目に入らないように注意してください。
- 誤飲、誤食に注意してください。誤って飲み込んだ場合は、吐き出し、直ちに医師の手当てを受けてください。また、農薬使用中に異常を感じたときは、直ちに医師の手当てを受けてください。
- また、農薬の種類によっては、
  ☆農薬が目に入った場合は直ちに水洗し、眼科医の手当てを受けてください。
  ☆かぶれを生ずる場合がありますので注意が必要です。また、かぶれやすい人は、使用を控える必要があります。
- 環境へ配慮した使用が必要です。
  ☆防除対象作物以外への飛散がないよう注意してください。
- 農薬は、子供の手が届かない場所に保管してください。



重　要

薬剤は濃度が均等になるように溶かしてください。固まりが残ると、散布ノズルの目詰まりの原因となります。

薬液散布について

農薬使用上の留意点

- 農薬ラベルをよく読んでください。
  農薬の使用にあたっては、農薬ラベルに記載されている事項を確認してから使用してください。
- 農薬取締法が改正されました。
  平成１５年３月の農薬取締法改正にともなう省令に基づく使用基準により
  ①使用する作物に登録のある農薬を使用すること、
  ②使用濃度(希釈倍率)および面積あたりの使用量、
  ③収穫前使用日数、④使用回数の４点については農薬使用者が遵守する義務が生じています。

⚠ 警　告

- 飲料水源・河川・湖沼から直接給水することは避け、専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。
- 薬液は残らないように調製し、必ず使い切ってください。
- 薬害や環境汚染を起こさないよう充分配慮してください。

薬液散布前の注意

- 滑りにくい作業靴を履いてください。
  つま先のあいた靴、サンダル、はだしで散布作業を行なわないでください。
- 薬液を散布する場合、頭、足、その他の外部にさらされる部分を保護する衣服、保護具を身に付け、薬液が皮ふに触れないようにしてください。
- 薬液が浸透しない防水性に優れ、汗をかきにくい通気性のよい衣服を身に付けてください。
- 汗を拭いたり顔を洗うためにタオル、手ぬぐい、水などを用意してください。
- 作業を行なう場所をよく調べ、作業者以外の人、子供、家畜、養蚕、養蜂、他の作物などが近くにないことを確認してください。
- 専用の給水栓や薬液補給用貯水槽から給水してください。飲料水源・河川・湖沼からは直接給水しないでください。

⚠ 警　告

- 夜間や、視界が悪く暗い場所では、本機を絶対に操作しないでください。
- 風が強いときには絶対に散布を行なわないでください。風向きが急に変わり、予期しない方向へ薬液が飛んでしまうことがあります。


HP303-25

薬液散布中の注意

- 散布作業は、日中を避け、涼しい朝、夕方に行なうようにしてください。気温が上がると薬液が空気中に上昇したり、気化します。また、体力も余計に消耗してしまいます。
- 薬液がからだにかかるのを避けるため、風下の方を向き、風を背中に受けるようにして、後ろ側へ進みながら散布してください。



VRS601-06

- 薬液の散布はたいへん体力を消耗します。長時間の作業は避け、２時間を限度としてください。
- 作業をしながらタバコを吸ったり食べ物、飲み物をとったりしないでください。タバコ、食べ物に付着した農薬がからだの中にはいることがあります。


HP303-26

薬液散布後の注意

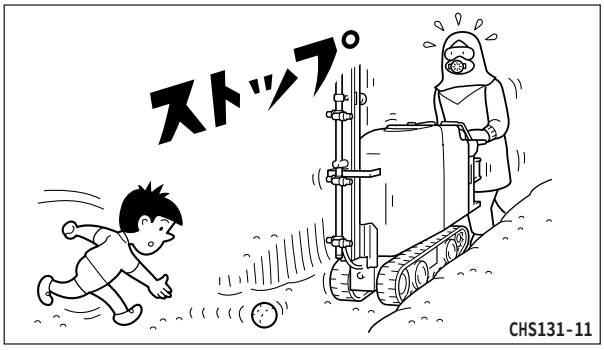
- ハウス内で防除作業を行なったときは、薬液が乾くまでは立入禁止の表示を置いてください。
- 作業中に着ていた服は、他の衣服とは別に洗ってください。

重　要

散布終了後は、必ず清水で運転しノズル内などをきれいに洗ってください。散布ノズルの目詰まりの原因となります。

⚠ 警　告

作業中あるいは作業終了後、からだに異常を感じたときは、すぐに医師に相談してください。使用していた農薬の種類を告げてください。

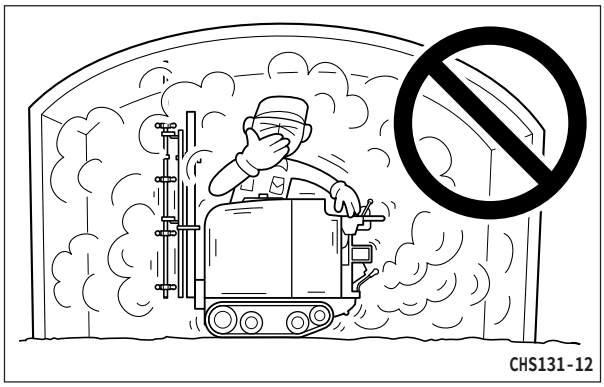


CHS131-11

作業中の注意

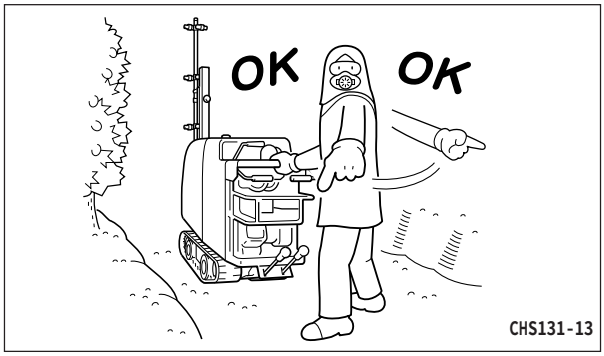
⚠ 警　告

危険を感じた場合はすぐに作業を中止してください。



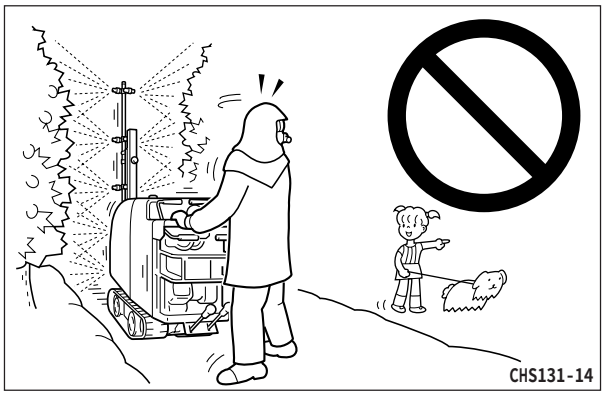
⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。

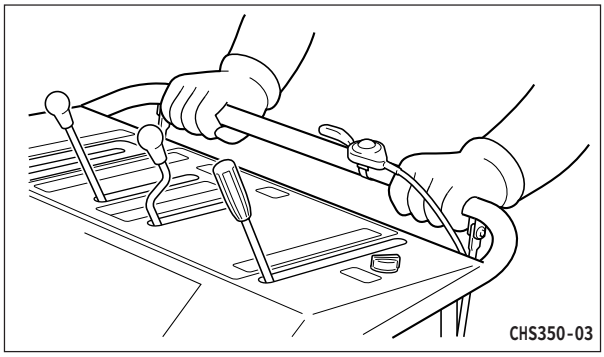


⚠ 警　告

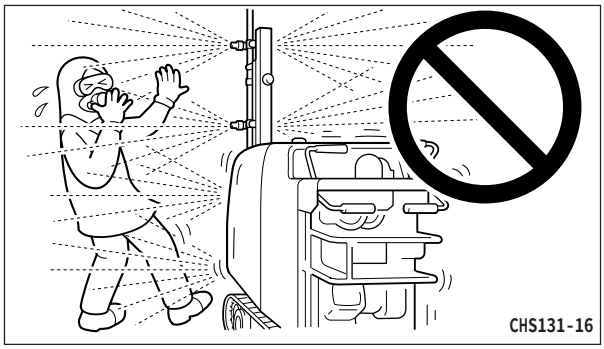
本機を動かすときは必ず周囲の安全を確認してください。



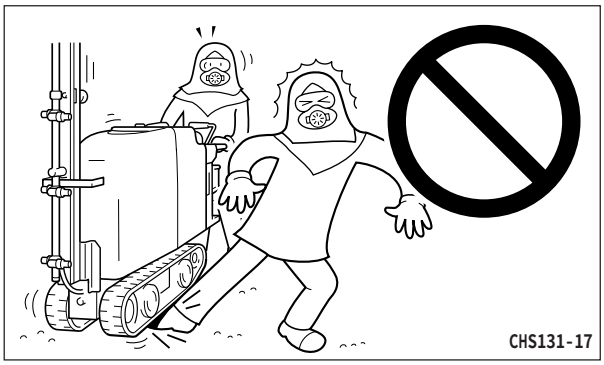
- **作業中はよそ見をしないでください。作業以外の場所を見なければいけないときは、作業を停止してください。**



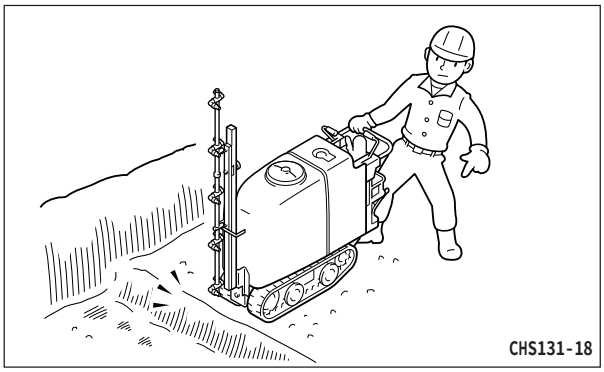
- **作業中はハンドルをしっかり握ってください。**



- **作業中はノズルにさわらないでください。ノズルの調整を行なうときは、作業を停止してください。**

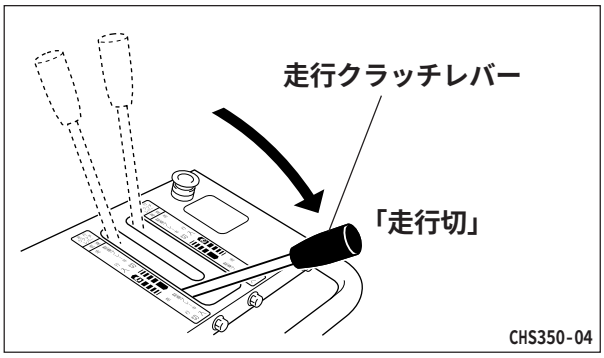


● クローラに足を踏まれないように注意してください。

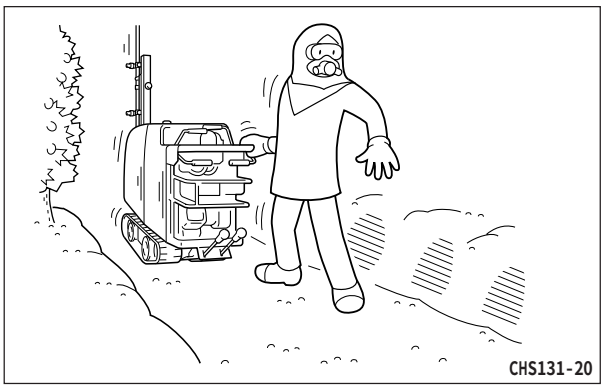


⚠ 警　告

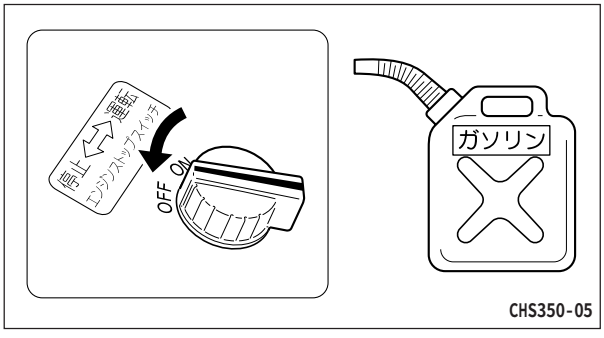
坂道、路肩、障害物、乗り越え、溝のある場所、軟弱地では速度を落とし､充分注意して走行してください。



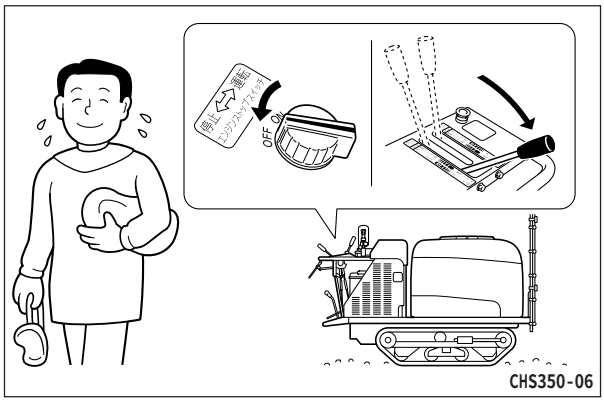
● 速度を変えたり、進行方向を変えるときには必ず走行クラッチレバーを「走行切」にしてください。



● 後進するときは、速度を落とし、障害物がないことを確認してください｡足元には充分気をつけてください。



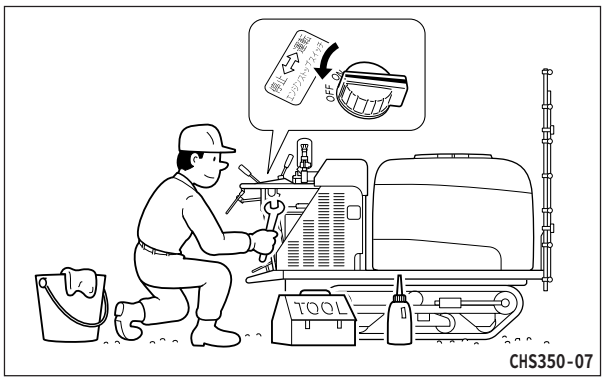
● 燃料を補給するときは､必ずエンジンを停止し、冷えてから行なってください。



● 本機から離れるときは､エンジンを停止してください。

⚠ 警　告

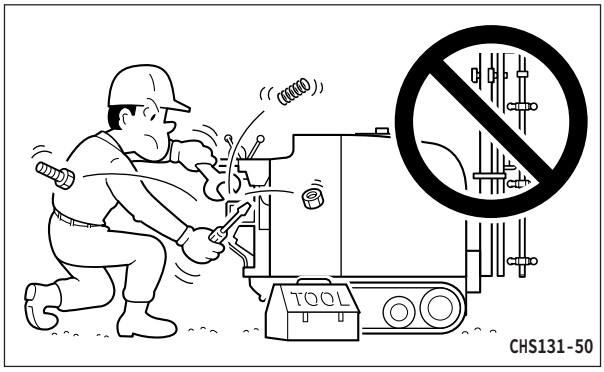
本機から離れるときは、必ず駐車ブレーキを掛けてください。



点検・整備の注意

⚠ 警　告

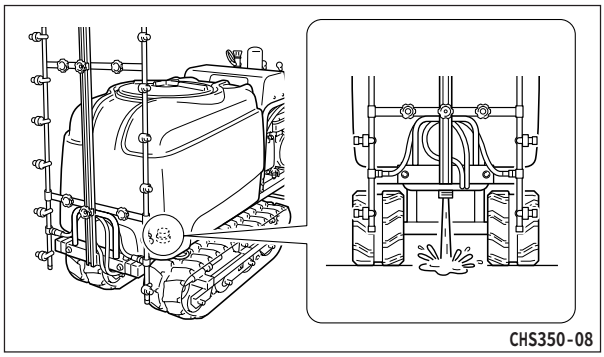
修理、清掃などの作業を行なうときは、必ずエンジンを停止してください。



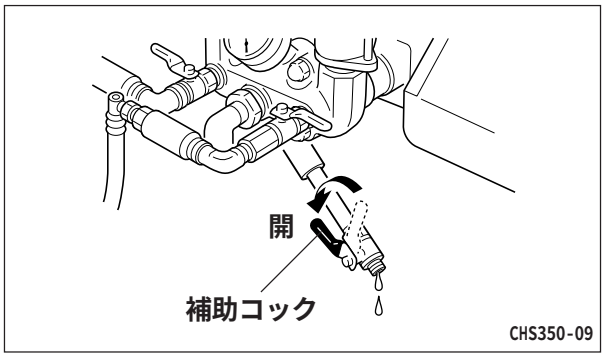
重　要

点検・整備は、本取扱説明書およびエンジンの取扱説明書に従って行なってください。

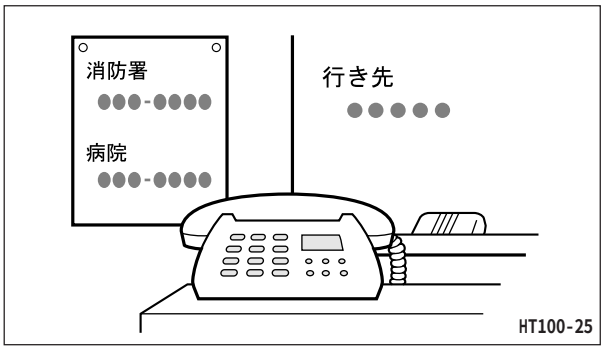
● 当社指定以外の部品を使用したり、本機の改造を行なったりしないでください。

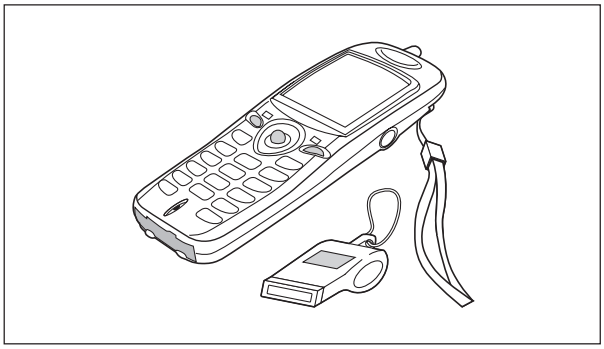


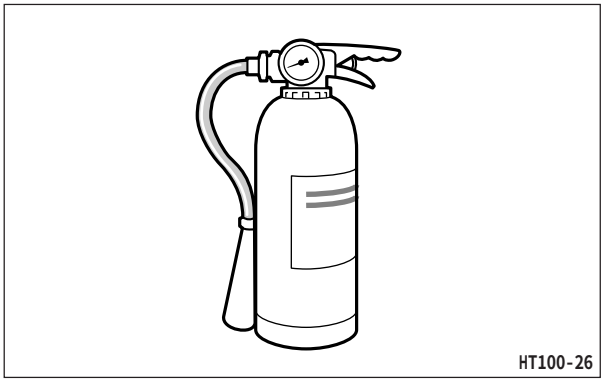
● 保管する前に必ず薬液タンクドレンのフタを外し、薬液タンク内の洗浄水を排出してください。
冬期に凍結することがあります。

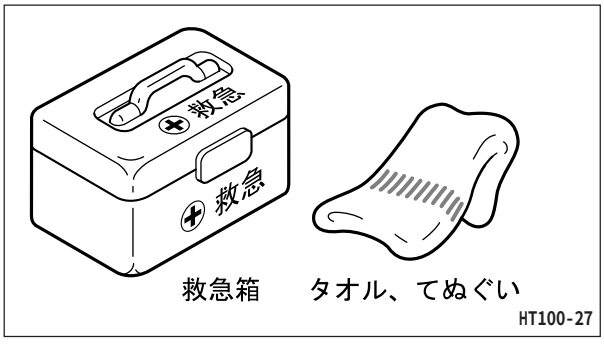


● 動噴の補助コックを「開」にし、動噴内部の水を排出してください。









万一の事故に備えて

● 作業の前に

・万一の事故に備え、電話機のそばの目につきやすい場所に、医療機関、消防署（救急車）の電話番号を明確にしておいてください。
特に消防署への連絡の場合、救急車のための目標地点（住所、目標となる建造物など）も明確にしておくと、的確な連絡に役立ちます。

・単独で作業する場合、どこで作業を行なっているかが他の人にもわかるような方法（携帯電話を持つ、黒板に作業現場をメモするなど）を講じてください。負傷し動けなくなり帰れなくなった場合の対処として有効です。

・作業現場には、呼子（笛）を携帯してください。

● 発火に対する備え

⚠ 警　告

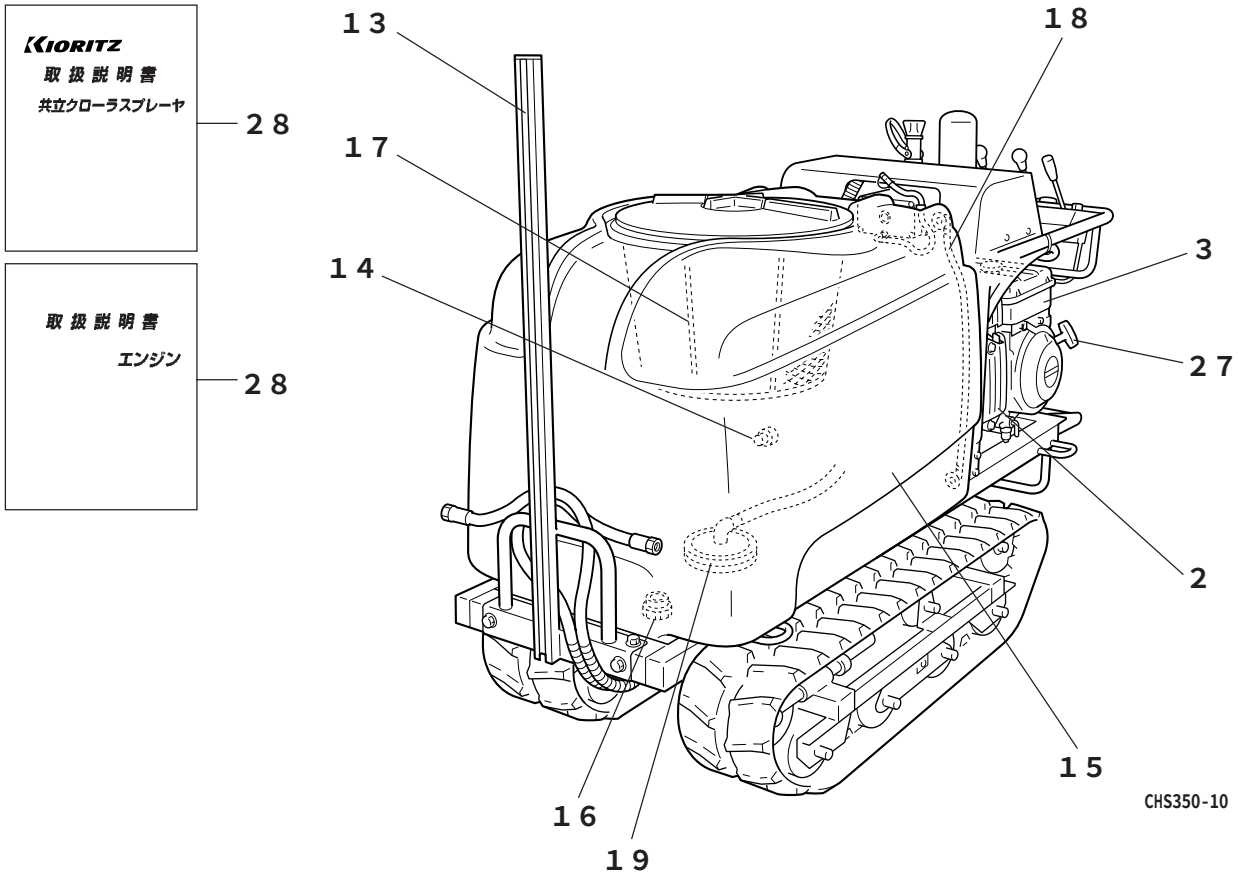
作業中、万一、エンジンから発火または排気口以外から発煙したら、まず機械から離れ、自分の身体の安全を確保してください。

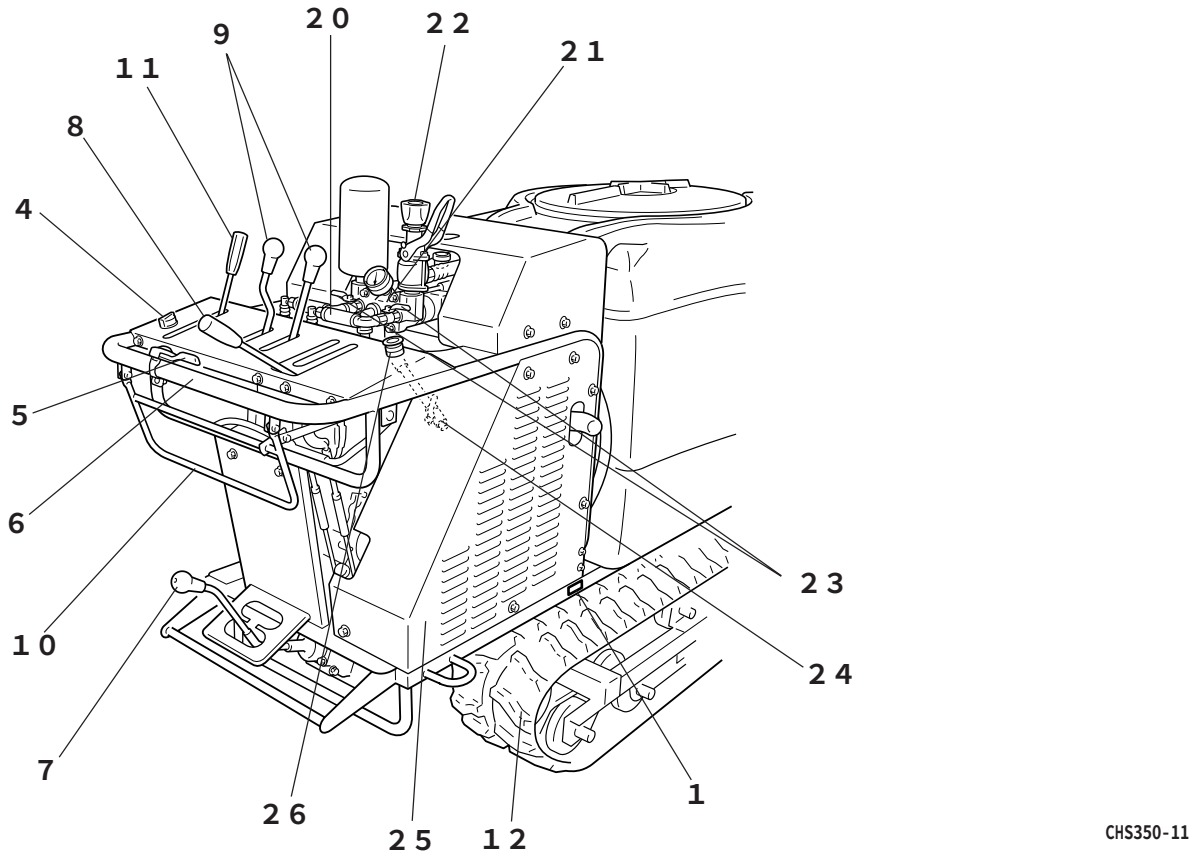
・自分の身体を、火災その他の傷害から守るように注意してください。
草木などに類焼しないよう注意してください。
シャベルで砂などをかけるか、または消火器で消火してください。

●ケガへの備え

・万一のケガへの備えとして、応急手当用品の入った救急箱を用意してください。
出血をともなうケガについては、止血用に汗拭き用のタオルや、てぬぐいなども有効ですので、常時余分に作業現場へ携帯することをおすすめします。

各部の名称

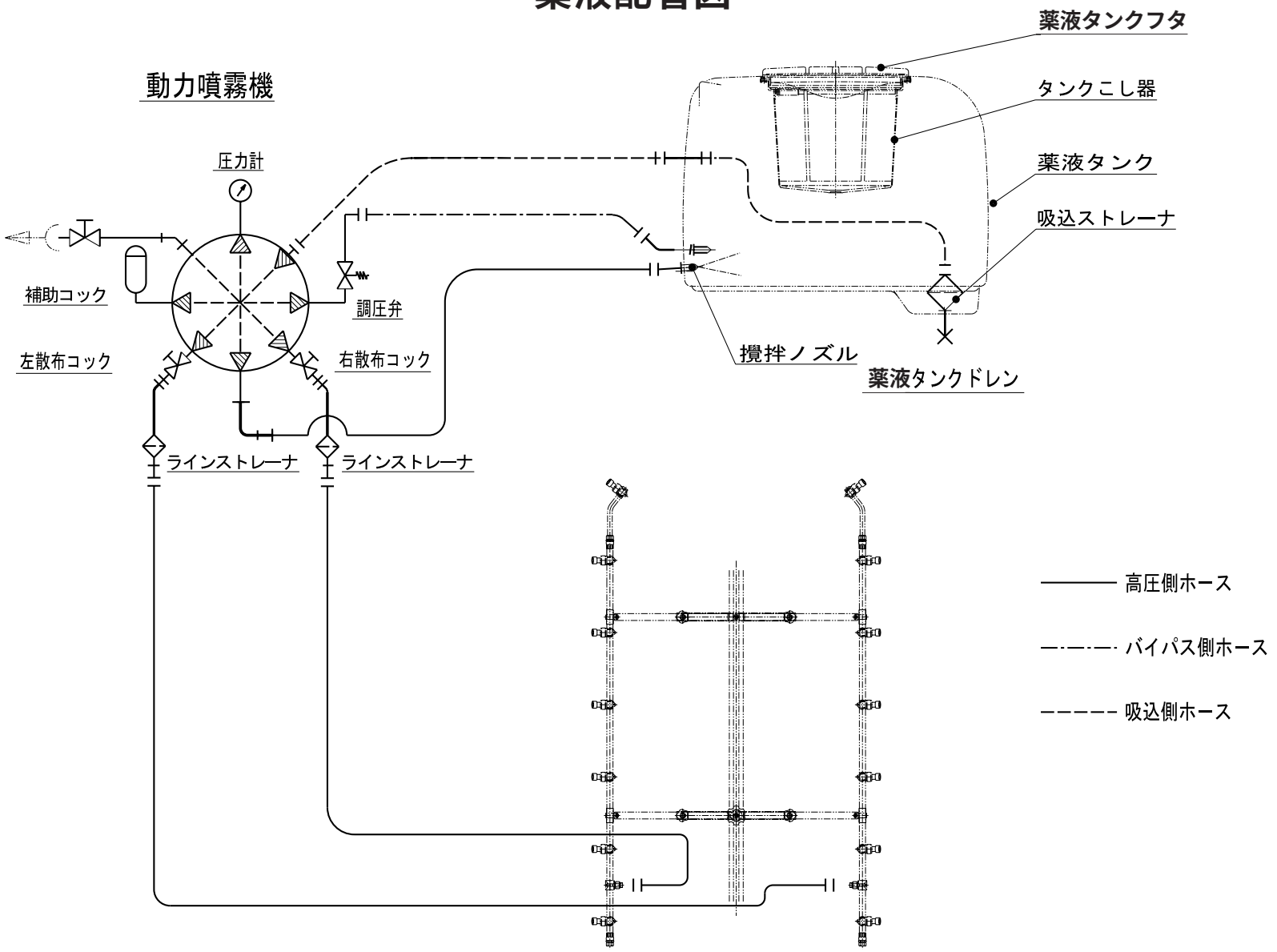

KIORITZ
取扱説明書
共立クローラスプレーヤ
28
取扱説明書
エンジン
28
13
17
14
18
3
27
2
15
16
19
CHS350-10


20
22
9
21
11
8
4
5
6
10
7
26
25
12
1
23
24
CHS350-11

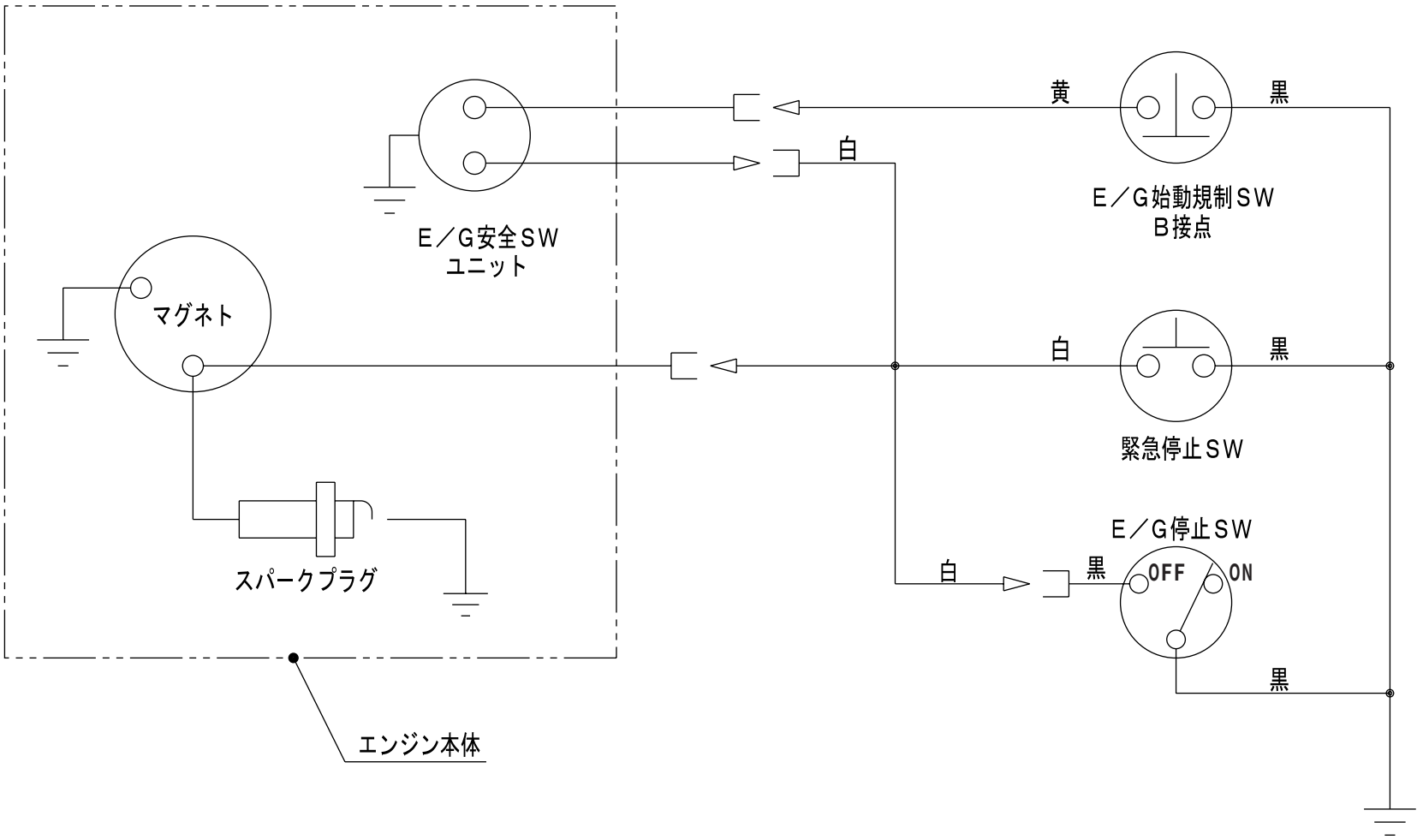
各部の名称とその機能

１．型式番号ラベル ――― お問い合わせの際にお知らせ願います。
２．エンジン ――― 動噴・走行用クローラ・油圧ポンプの**駆動源**です。
３．燃料タンク ――― エンジンの燃料タンクです。
４．エンジンストップスイッチ ――― エンジンを**停止**します。
５．スロットルレバー ――― エンジン回転数を**調節**します。
６．ハンドル ――― 走行時に持つ場所です。
７．変速レバー ――― **前進・後進・変速**の切替をします。
８．走行クラッチレバー ――― **走行・停止**の切替をします。
９．サイドクラッチレバー ――― 左・右各々の操作により**左折・右折**をします。
１０．ワンタッチブレーキレバー ――― 腹部などで押して、ワンタッチで**走行を停止**します。
１１．動噴クラッチレバー ――― 動噴の**駆動・停止**を切替します。
１２．ゴムクローラ ――― 走行用クローラです。
１３．ノズル取付支柱 ――― 各種ノズルを取付けます。
１４．撹拌ノズル ――― 薬液を撹拌します。
１５．薬液タンク ――― 薬液を入れるタンクです。
１６．薬液タンクドレン ――― 薬液タンクの洗浄水を抜きます。
１７．タンクこし器 ――― 薬液タンクへ入れる薬液などを**こします**。
１８．液量計 ――― 薬液の**残量を確認**します。
１９．吸込ストレーナ ――― 動噴の吸込む**薬液をろ過**します。
２０．ラインストレーナ ――― ノズルへ行く**散布薬液をろ過**します。
２１．動力噴霧機（動噴） ――― 散布薬液の圧力を昇げ、圧送します。
２２．調圧弁 ――― 動噴の**圧力を調整**します。
２３．散布コック ――― 散布ノズル右、左の**散布⇔停止**をします。
２４．補助コック ――― 圧力水の**取出し**と動噴の**ドレン兼用**です。
２５．ベルトカバー ――― 駆動ベルトの**安全カバー**です。
２６．緊急停止スイッチ ――― 緊急時にエンジンを停止するときに使用します。
２７．リコイルスタータハンドル ――― エンジンを始動するときに使用します。
２８．取扱説明書 ――― 機械をお求めになったとき必ず付属しています。
機械を使用する前に各説明書を必ず読んでください。また正しい操作方法を再度確認する場合に備え、すぐ取出せる場所に必ず保管してください。

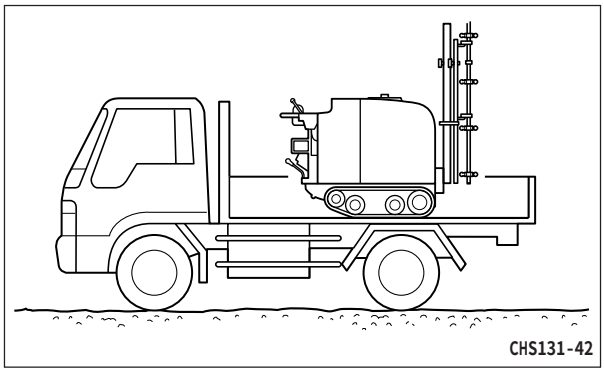
薬液配管図


動力噴霧機
圧力計
補助コック
調圧弁
左散布コック
右散布コック
ラインストレーナ
ラインストレーナ
薬液タンクフタ
タンクこし器
薬液タンク
吸込ストレーナ
撹拌ノズル
薬液タンクドレン
高圧側ホース
バイパス側ホース
吸込側ホース

配　線　図

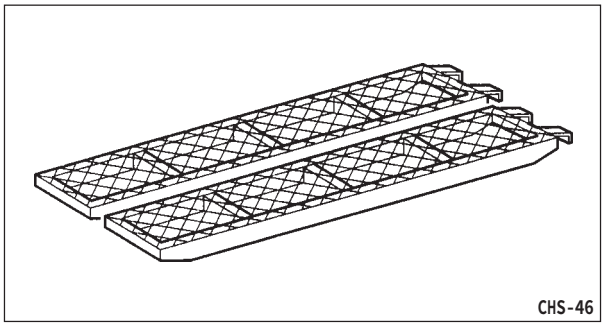

黄
黒
白
E／G始動規制SW
B接点
E／G安全SW
ユニット
マグネット
白
黒
緊急停止SW
スパークプラグ
E／G停止SW
白
黒
OFF
ON
黒
エンジン本体

輸送・移動時の注意



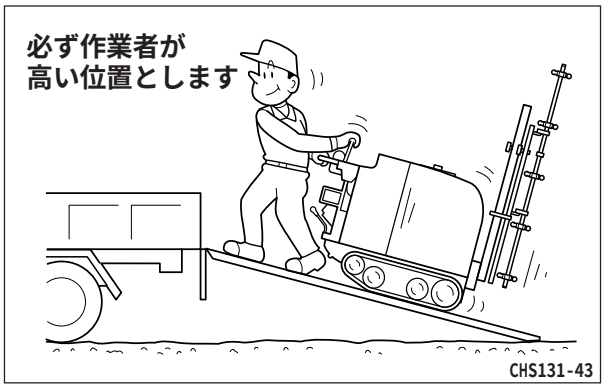
本機を移動するときやトラックなどで輸送するときには、以下の点を守ってください。

- 本機の荷重に耐えられる輸送機を使用してください。
- 本機のエンジンを停止してください。
- 燃料をカラにしてください。
- 薬液タンクをカラにしてください。
- 変速レバーを「中立」以外にしてください。
- ノズルステー部の各ロックボルトを確実に締付けてください。



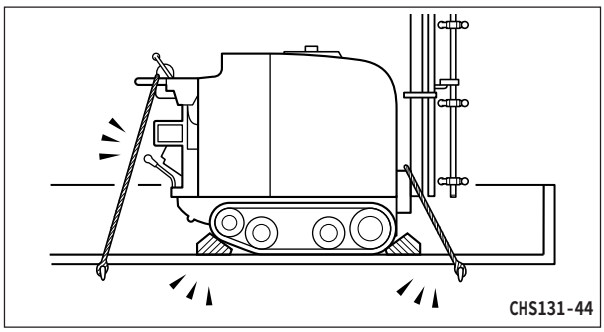
- 充分な強度と長さがあり、スベリ止めの付いたアユミ板を使用してください。

- 積み降ろしは低速で行なってください。アユミ板の上で方向変換はしないでください。
  荷台の高さの２倍以上の長さのアユミ板を使用してください。



⚠ 危　険

本機の積み込みは必ず後進で､降ろすときは必ず前進で行なってください｡(作業者が高い位置で行ないます｡)
本機のバランスがくずれ本機の下敷きとなり、死亡または重傷事故を起こす恐れがあります。



⚠ 警　告

下部フレームおよびハンドルにロープなどを掛け固定し、クローラに歯止めを掛けてください。

重　要

ノズル管スタンドの上部や薬液タンクなどには絶対にロープ掛けをしないでください。

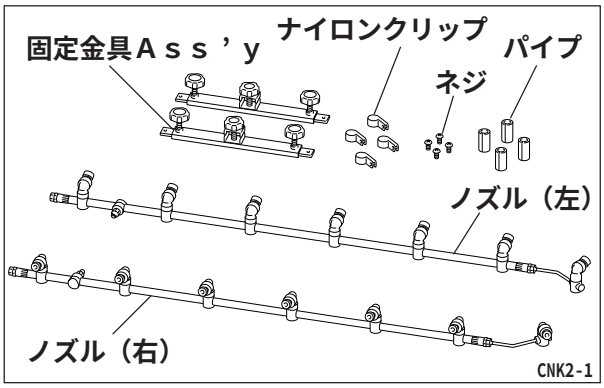
使用準備

⚠ 警　告

ノズル管を取付けるときは、必ずエンジンを停止してください。

ノズルを取付ける

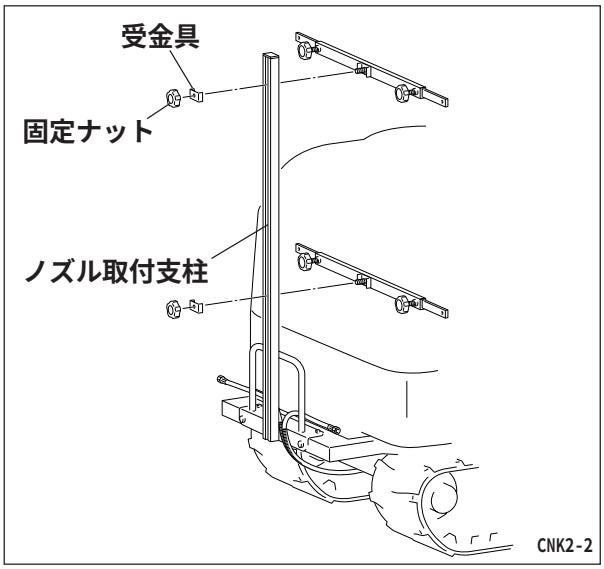
用途に応じて、適切なノズルを選んでください。



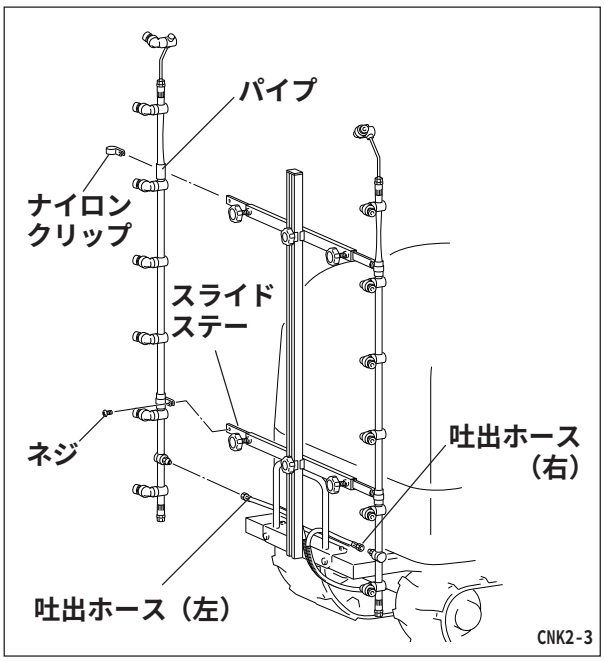
ノズル・ＣＮＫ２の取付方法

（他のアタッチメントノズルを取付ける場合は、それぞれの取扱説明書を読んでください。）

１．ノズルキットに左図の部品があることを確認してください。

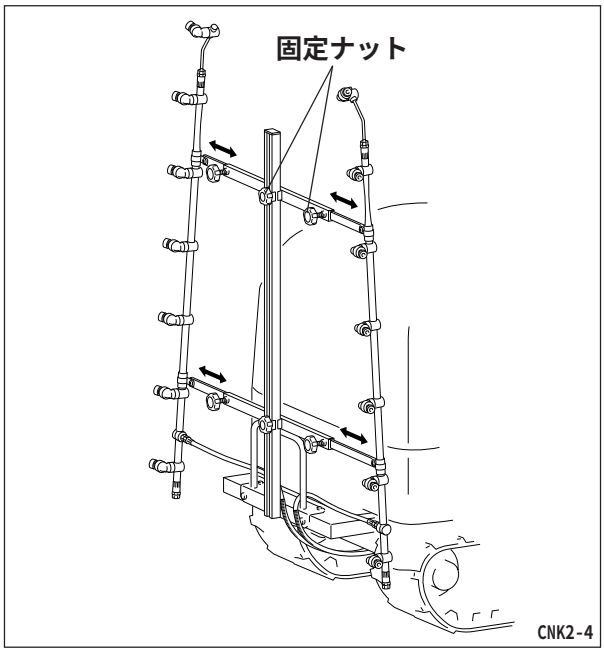


２．固定金具Ａｓｓ’ｙ（２ヶ）の固定ナット受金具を外し、ノズル取付支柱に組付けてください。

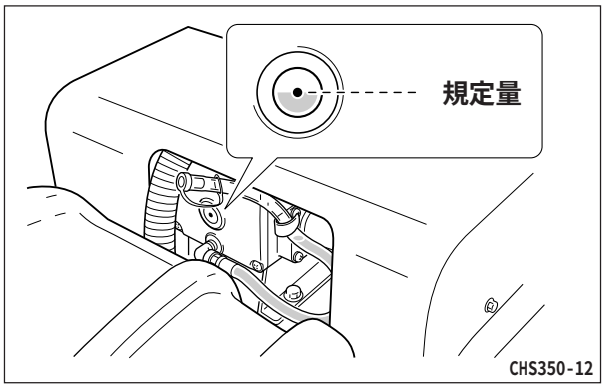


３．ノズル（右）および（左）のナイロンクリップ取付部にパイプを取付け、その上にナイロンクリップを取付けてください。

次に、固定金具スライドステー部のネジ孔に（＋）ドライバーなどを用い、ネジでノズルを確実に取付けてください。



４．固定ナットをゆるめ､散布状況に合わせてノズルの高さ、幅を調整してください。
調整後は､ゆるまないように固定ナットをしっかりと締めてください。

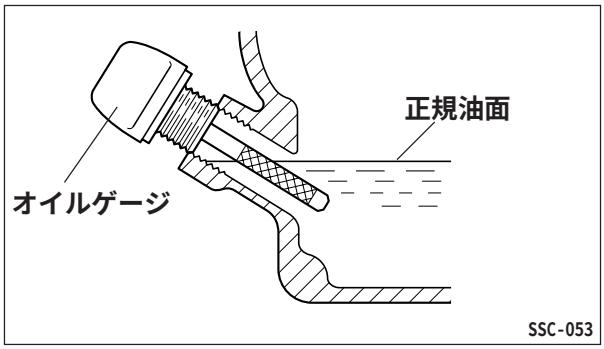


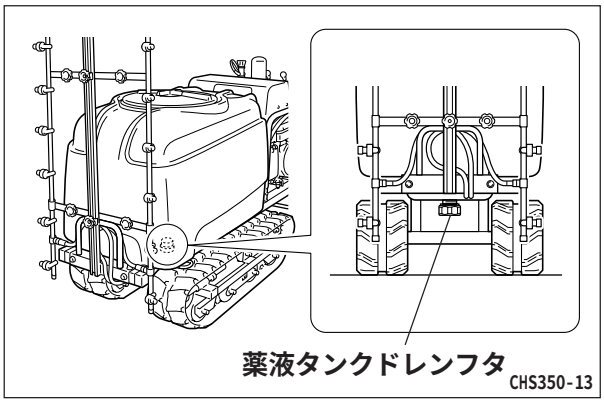
オイルを入れる

動噴とエンジンのオイル量を各オイルゲージで確認してください。少ない場合は補充してください。

重　要

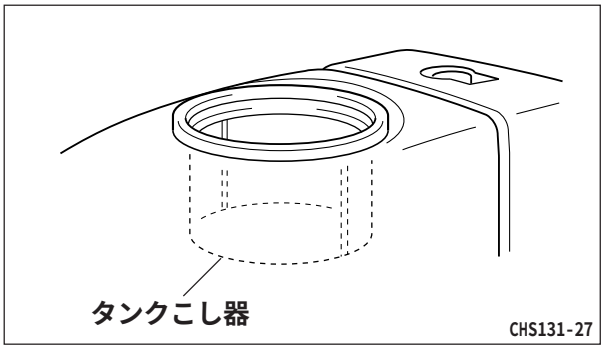
- 動噴のオイルの種類や補充は、２８ページの点検・整備の項を参照してください。
- エンジンオイルの種類や補充は、エンジンの取扱説明書に従ってください。





薬液を入れる

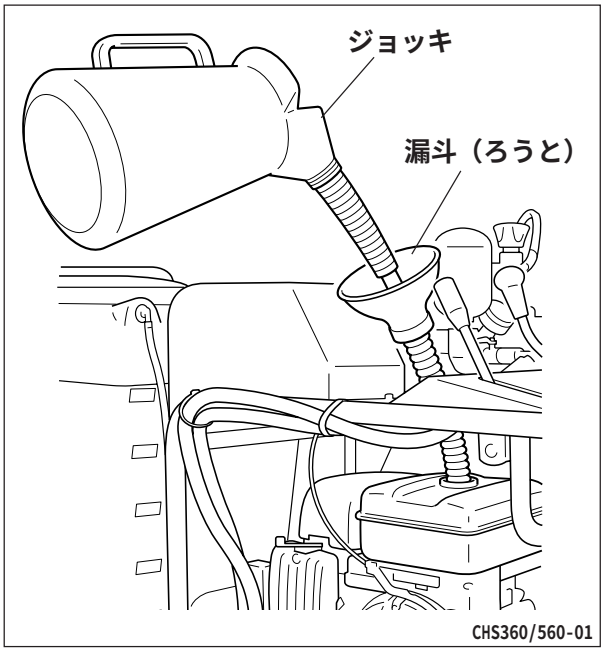
● 薬液タンクドレンのフタが確実に締まっていることを確認します。



● 薬液を、タンクこし器を通して、薬液タンクに入れます。

重　要

薬液をタンクに入れる前に、あらかじめ別の容器で混ぜてください。



燃料を入れる

⚠ 警　告

- 燃料を補給するときは、必ずエンジンを停止してエンジンが冷えてから行なってください。
- 燃料給油時は、ジョッキ、漏斗（ろうと）などを使用し、給油口からこぼさないように補給してください。（燃料タンクの口元まで給油しないでください。）
- 傾斜地では補給しないでください。
- 燃料をこぼした場合は、すぐに拭き取ってください。

重　要

燃料は必ず無鉛ガソリンを使用してください。

● 燃料は自動車用無鉛ガソリンです。

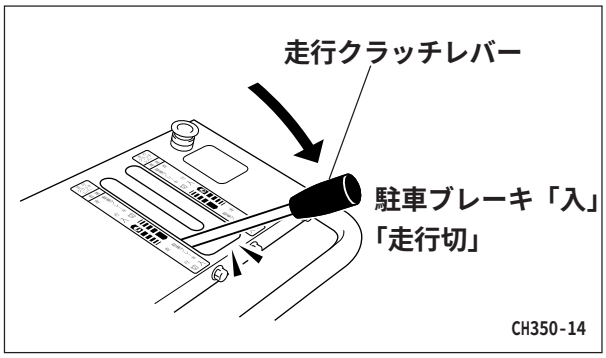
● 燃料に水分やゴミが入っていると、エンジン不調となります。きれいな新しい燃料を使用してください。

● 燃料を補給した後は、燃料タンクキャップを確実に締めてください。

作業を行なう

⚠ 警　告

エンジンの排気ガスには、死に至る有毒なガスが含まれています。室内や通気の悪い場所でエンジンを始動しないでください。



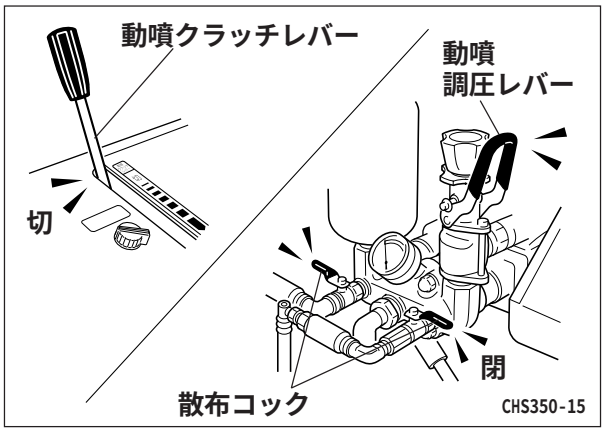
エンジンを始動する

１．以下のことを確認してください。

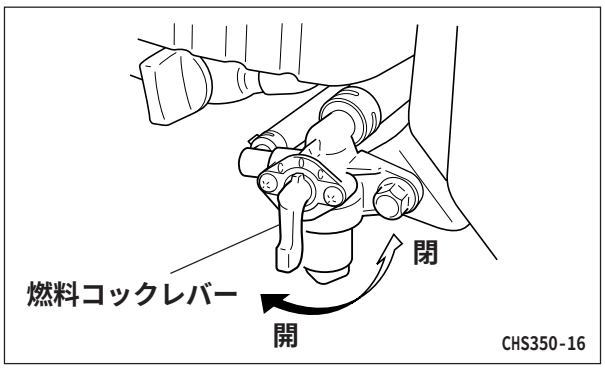
- **走行クラッチレバーが駐車ブレーキ「入」となっている。**

重　要

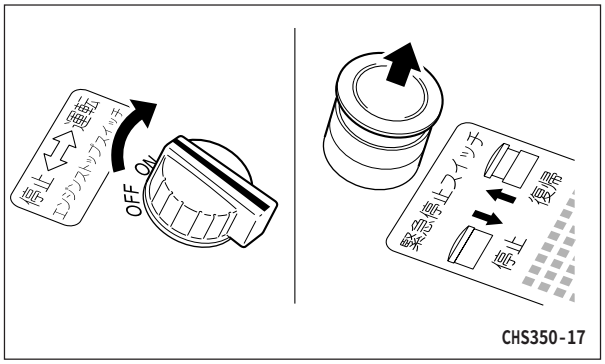
- **走行クラッチレバーが「走行切」の位置にあることを確認してください。走行クラッチレバーが「走行切」位置のときのみ、エンジンが始動できます。**
- **各変速レバー共に「中立」位置にしてください。**



- **動噴調圧レバーが上がっている。**
- **動噴クラッチレバーが「切」の位置にある。**
- **散布コック、補助コックが閉じている。**



２．燃料コックレバーを開きます。

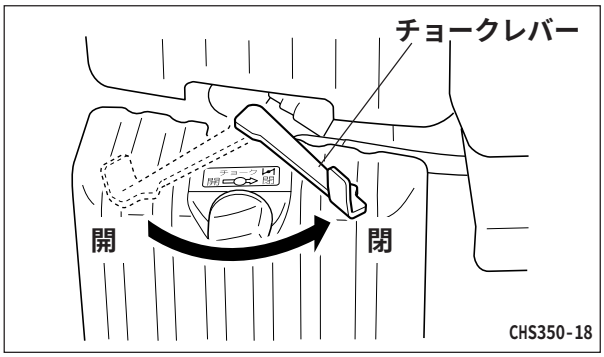


３．エンジンストップスイッチを「運転」位置にします。

※ 緊急停止スイッチの取扱いと操作

緊急停止スイッチは、緊急時、本機の走行を停止させるときに使用します。スイッチを押すとエンジンが停止します。

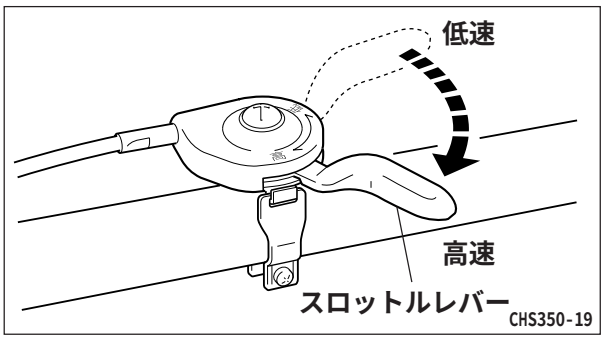
復帰させるときは、再度スイッチを押してください。通常使用時は、復帰状態で使用してください。



４．リコイルスタータハンドルを引いてエンジンを始動します。

重　要

エンジンが冷えているときは、チョークレバーを「閉」にしてからリコイルスタータを引いてください。エンジンが始動したら、必ずチョークレバーを「開」にしてください。

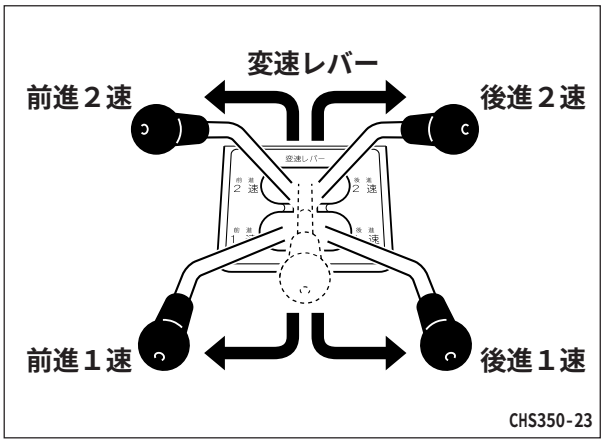


５．スロットルレバーを動かしてエンジンの回転数を調整します。

重　要

エンジンの始動は、エンジンの取扱説明書に従ってください。

走行を行なう

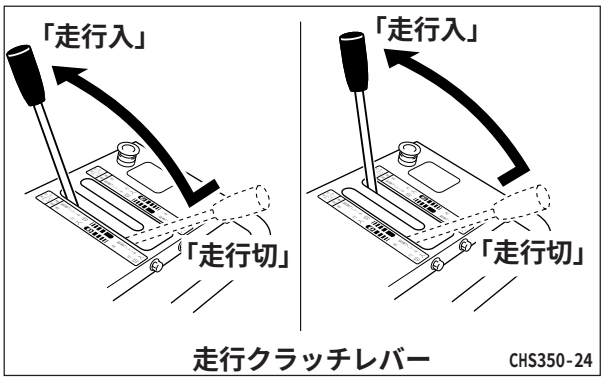


１．前進するときは変速レバーを前進に、後進するときは後進に入れます。

２．低速走行するときは変速レバーを１速に、高速走行するときは２速に入れます。

重　要

変速レバーは確実に操作してください。走行中にギアが抜けたり、故障の原因となります。
変速レバーの操作は、走行クラッチレバーが「走行切」の位置で、本機が確実に停止しているときに行なってください。

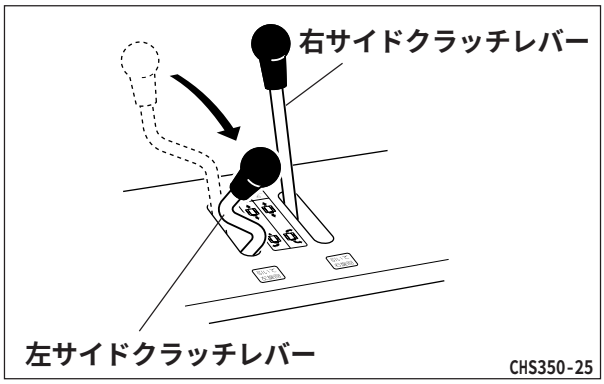


３．走行クラッチレバーでも低速、高速を選ぶことにより、全部で４通りの変速ができます。

４．走行クラッチレバーをゆっくりと「走行入」の位置にすると走行を開始します。

重　要

走行を開始したら、走行クラッチレバーを確実に「走行入」の位置にします。
中間位置で走行すると故障の原因となります。



旋回を行なう

１．左に旋回するときは､左のサイドクラッチレバーを引きます｡右に旋回するときは､右のサイドクラッチレバーを引きます。

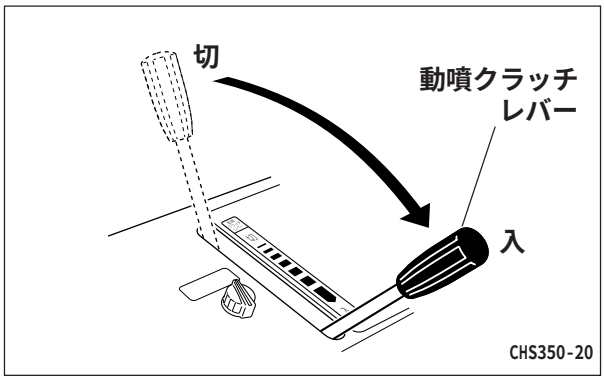
重　要

それぞれのサイドクラッチレバーは確実に引く、またははなすように操作してください。
中間位置での使用は故障の原因となります。

２．旋回後はサイドクラッチレバーをはなしてください。

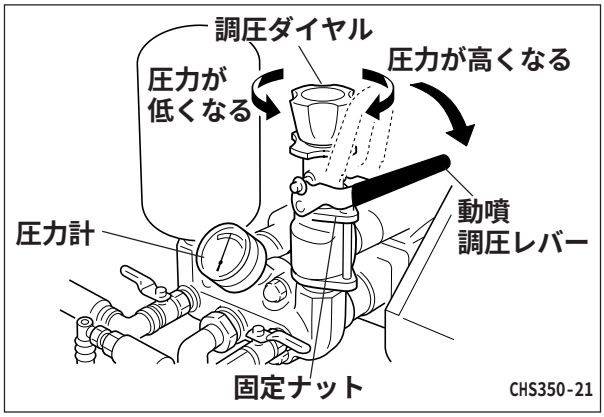
⚠ 警　告

旋回する方向に人､障害物のないことを確認し、ゆっくりと行なってください。



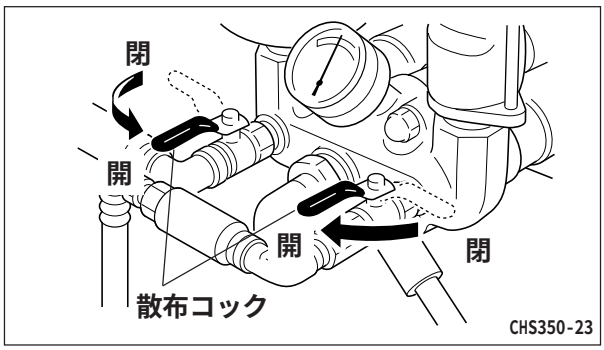
散布を行なう

１．動噴クラッチレバーを「入」の位置にします。



２．動噴調圧レバーを下げて圧力計が動くことを確認してください。
調圧ダイヤルを回して散布圧力を設定します。
[最高圧力：２．５ MPa（２５ kgf/㎠)]
調整後､固定ナットで調圧ダイヤルを固定します。

３．薬液タンクのフタを開けて、薬液のかくはん状況を確認してください。適切なかくはんを行なうために､ノズルの総吐出量を１８L/min以下としてください。



重　要

本機は薬液のかくはんを動噴の余水（循環水）にて行なっています。薬液投入後は、散布終了まで動噴を運転し､薬液のかくはんを行なってください。

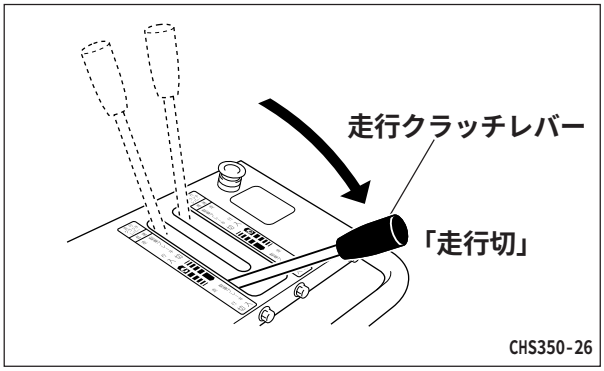
４．散布コックを開きます。

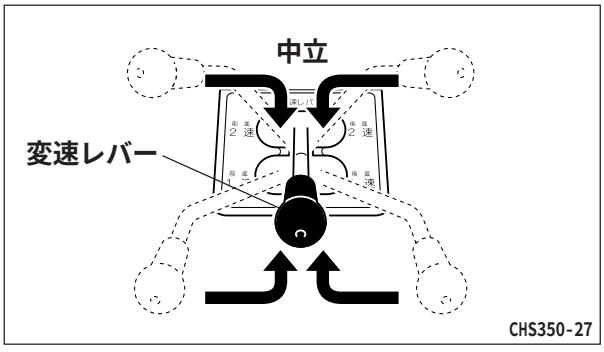
Ｑｎ：ノズル総吐出量　の求め方
Ｑｎ＝ノズル１個当りの吐出量（Ｑ１）×ノズル数

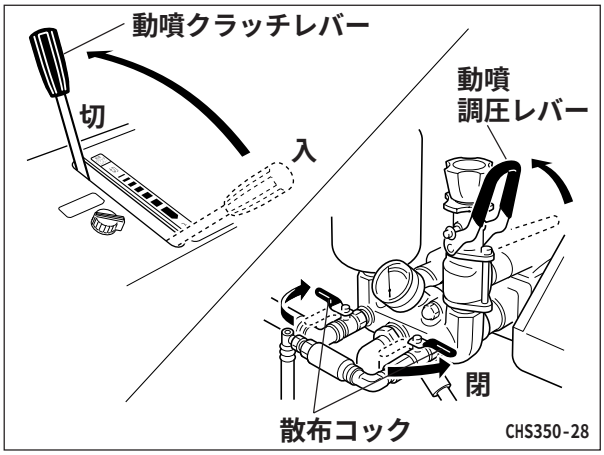
Ｑ１ ： ノズル1個当りの吐出量（L/min）			
圧　力	1.0 MPa	1.5 MPa	2.0 MPa
吐出量	0.85	1.0	1.15

※ＣＮＫ２，ＣＮＡ２は、下記を目安としてください。

Ｑｎ　：　ノズル総吐出量　（L/min）			
圧力 / ノズル	1.0 MPa	1.5 MPa	2.0 MPa
CNK2（14頭口）	11.9	14.0	16.1
CNA2（12頭口）	10.2	12.0	13.8







● **散布量（Ｌ／１０ａ）は**

$$Q = \frac{60 \cdot Qn}{L \cdot V}$$

Ｑ　：散布量（Ｌ／１０ａ）
Ｑｎ：ノズル総吐出量（Ｌ／min）
Ｌ　：散布幅（m）
Ｖ　：走行速度（ｋｍ／ｈ）

● **例えば圧力２．０ＭＰａ、ノズル総吐出量１６．１Ｌ／ｍｉｎ、走行速度１．５ｋｍ／ｈ、散布幅２．５ｍの場合。**

$$Q = \frac{60 \cdot 16.1}{2.5 \cdot 1.5}$$

２６０（Ｌ／１０ａ）

走行を停止する

１．走行クラッチレバーを「走行切」の位置とします。

重　要

ワンタッチブレーキレバーにて緊急停止ができます。走行クラッチレバーと連動です。

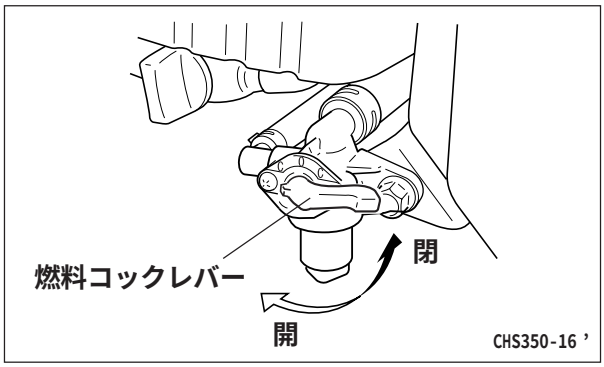
２．変速レバーを「中立」の位置にします。

散布を停止する

１．散布コックを閉じます。

２．動噴調圧レバーを上げます。

３．動噴クラッチレバーを「切」の位置にします。

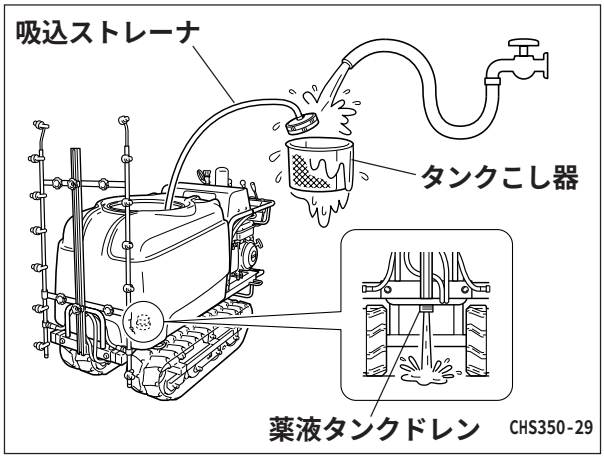


作業を終了する

1．エンジンストップスイッチを「停止」位置にして、エンジンを停止します。

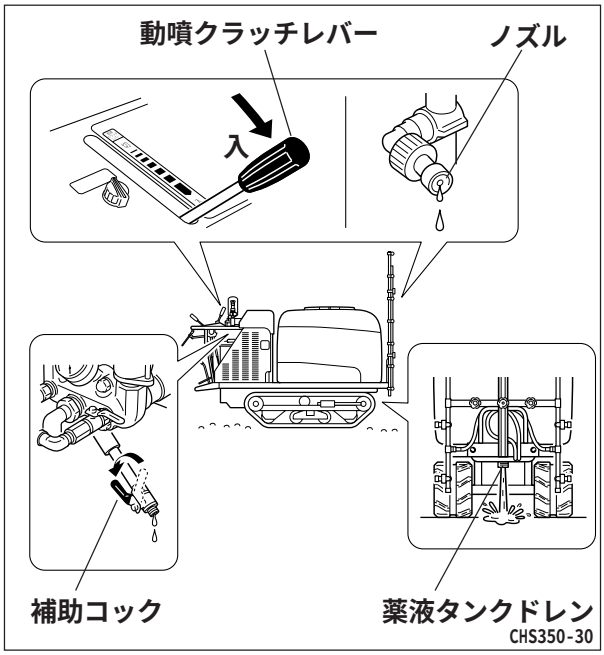
2．燃料コックレバーを「閉」の位置にします。

散布終了後の手入れ



重　要

散布終了後に、高圧水洗浄（特に温水）をした後は、各注油箇所に注油をしてください。



重　要

凍結による不具合などは、メーカの責任外となりますので、ご注意ください。

清掃

1日の噴霧作業が終わったら、次の要領で使用後の清掃をしてください。

清浄運転

薬剤で汚れた部分は清水できれいに洗浄します。機体は常に清潔な状態にしておくことを心掛けてください。

- 薬液タンクに清水を補給し、散布の要領でノズルから吐き出し、薬液配管内の洗浄を行ないます。
- タンクこし器、吸込ストレーナ、撹拌ノズルをきれいにします。
- 薬液の粗粒が詰まっていることが多いのでよく清掃してください。

凍結の恐れがある場合

1．薬液タンクドレンのフタを外し、薬液タンクをカラにします。

2．エンジンを運転し、動噴クラッチレバーを「入」にし、ノズルから水が出なくなるまで水抜きをします。

3．送水ホースをノズル部より外します。

重　要

動噴は、5分間以上カラ運転をしないでください。

4．補助コックを「開」とし、動噴内部の水を抜きます。

5．その他の方法として、薬液タンク内に不凍液を入れ動噴を無圧力で運転し、ノズルから吐出した時点に停止させることにより、配管内に不凍液を充満させ、凍結を防止することもできます。

⚠ 警　告

- 凍結防止に不凍液を使用した場合、次に本機を使用する際の不凍液の回収は、不凍液の説明書に従って実施してください。
- 環境汚染を起こさないよう充分配慮し、直接外部に廃棄しないでください。

点検・整備

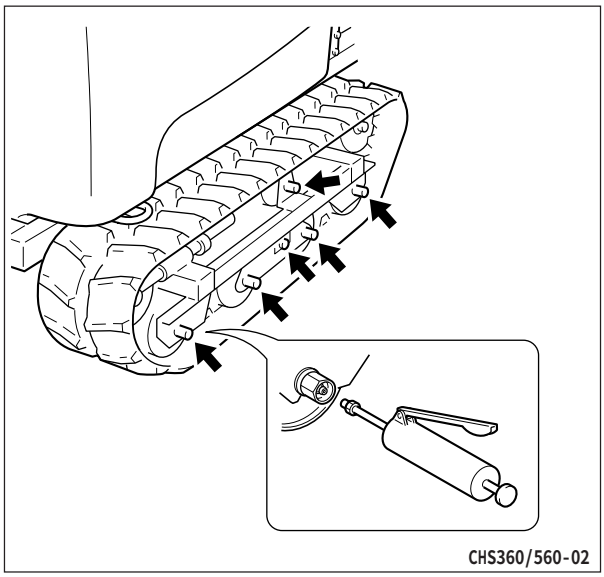
本機の点検、調整を怠ると事故の原因となることがあります。常に点検を行なって、本機を正常な状態に保つことが安全につながります。必ず実施してください。

- 始業点検は、使用者の方が行なうものです。
- 点検して異常があった場合は、速やかにお買い求めの販売店へ修理を依頼してください。
- 不明な点は、お買い求めの販売店にお問い合わせください。

◎‥‥使用者は、エンジン始動前に点検してください。
●‥‥使用者は始業前に、エンジンを始動させて点検してください。

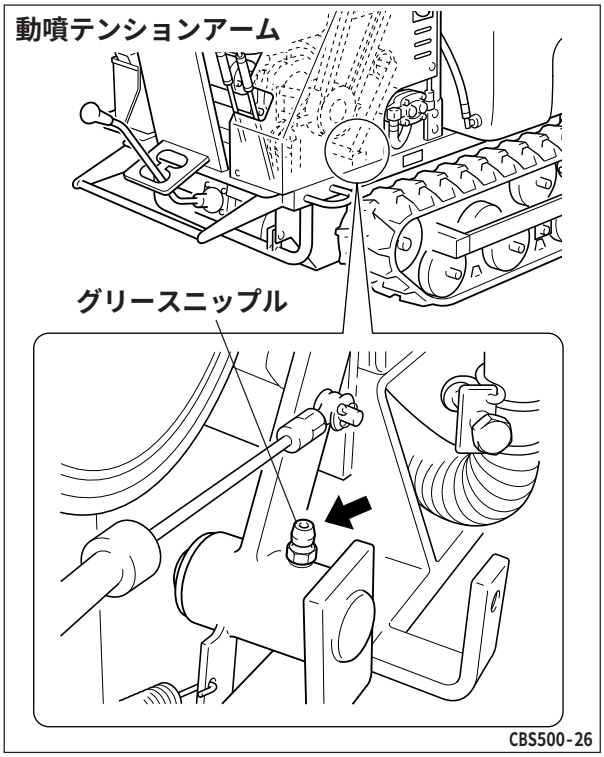
項目	点検内容	点検時期			
		始業	初回 20時間	100時間毎	1年または300時間毎
各Vベルト	ベルトの張りは適正か		○	○	
	亀裂、損傷はないか		○	○	
ミッション	油量は適切か		○	○	
	油の汚れはないか			○	
	油漏れはないか	◎			
	油の交換				○
燃料	燃料タンクに燃料は入っているか	◎			
	燃料キャップは確実に締まっているか	◎			
可燃物の付着	本機およびエンジンに草、屑などの可燃物が付着していないか	◎			
エンジンスイッチ	エンジンが始動・停止するか	●			
マーク類	マークのはがれ、脱落、損傷はないか	◎			
フレーム	亀裂、変形、腐食はないか				○
足回り	ゴムクローラの亀裂、損傷はないか	◎			
	遊動輪の亀裂、損傷および摩耗はないか				○
	クローラ張りの調整		○		
エンジン	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			
カバー類	各カバー類に亀裂、変形、損傷はないか				○
	各カバー類に脱落はないか	◎			

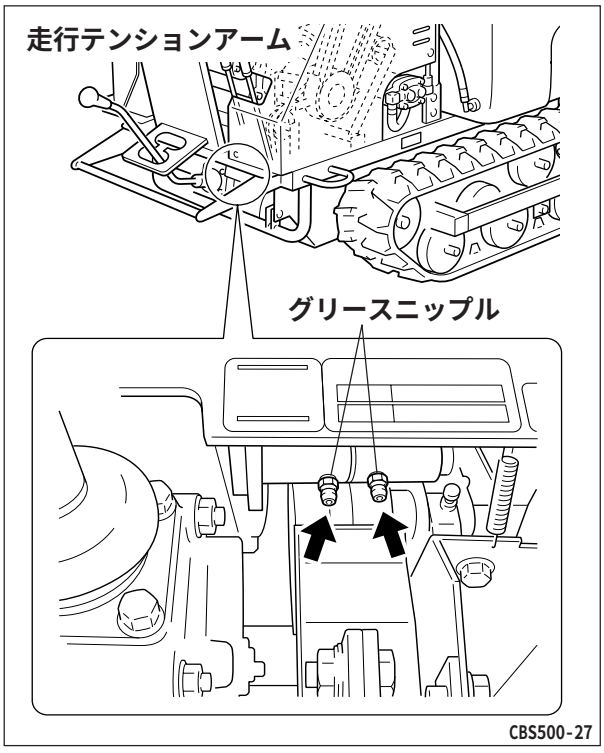
項　　目	点　　検　　内　　容	点　検　時　期			
		始　業	初　回 20時間	100時間 毎	1年または 300時間毎
スロットルレバー	レバーの動きに合わせて、エンジン回転数が変化するか	●			
サイドクラッチレバー	本機が旋回するか	●			
	レバーの遊び代は適切か		○		
	サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
変速レバー	各変速位置に入るか	●			
走行クラッチレバー	レバーは確実に入り戻るか	●			
	スムーズな発進と停止ができるか	●			
	走行クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
駐車ブレーキ	右サイドクラッチワイヤの調整		○		○
	支点部の注油			○	
動噴クラッチレバー	レバーは確実に入り戻るか	◎			
	動噴クラッチロッドの調整		○		○
	支点部の注油			○	
動噴	オイルの量は適切か	◎			
	オイルの漏れはないか	◎			


CHS360/560-02

給油

● 走行用クローラ部のグリースニップル
　補充‥‥‥‥‥２５時間毎
　種類‥‥‥‥‥リチウムグリース





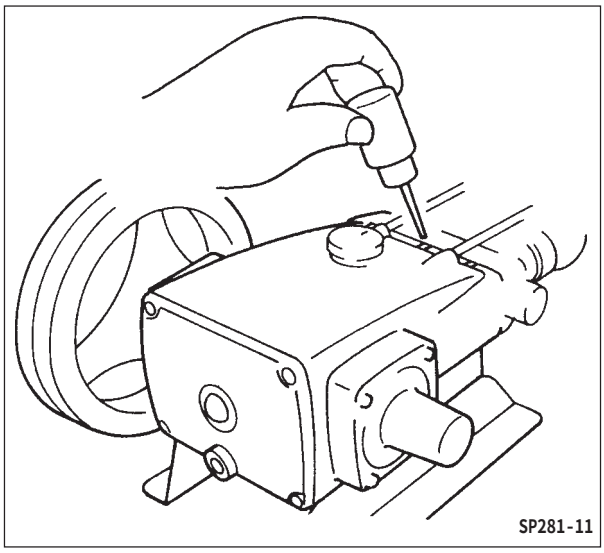
● テンションアーム支点のグリースニップル
補充‥‥‥‥‥‥２５時間毎
種類‥‥‥‥‥‥リチウムグリース

動力噴霧機の点検・整備

プランジャ部分の給油

（５～１０時間使用する毎に行なってください。）

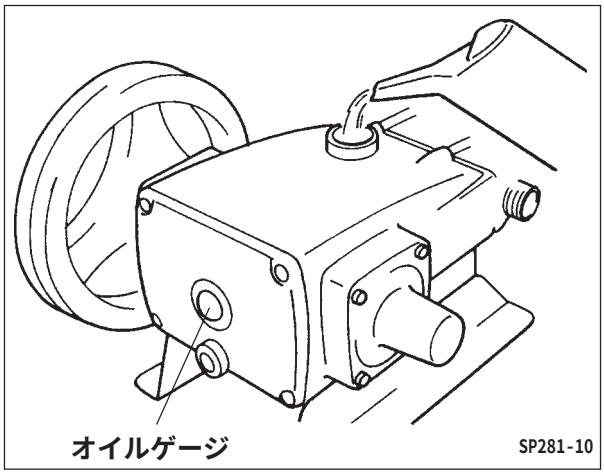
低速で運転しながら､付属のオイラでプランジャ給油口から１０滴ほど給油してください。

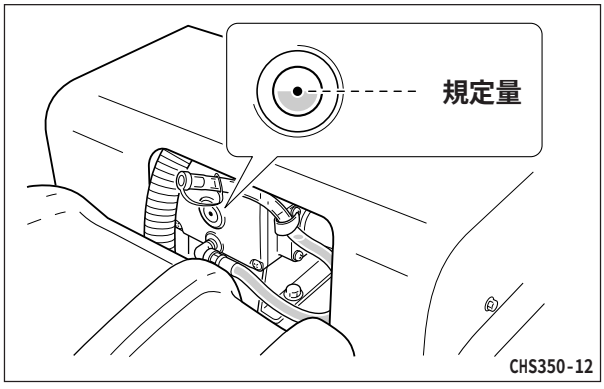


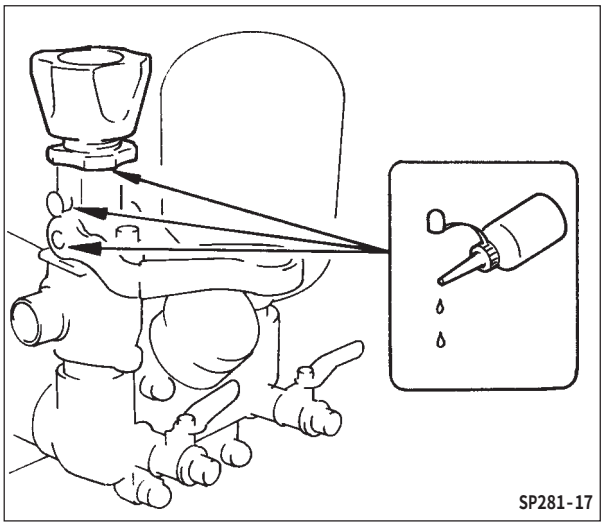
クランクケースのオイル交換

（最初は５０時間使用した後に、それ以降は１００時間使用する毎に行なってください。）

- **種類･･･････ ＳＣ、ＳＤ、またはＳＥ級、ＳＡＥ＃３０**
- **規定量･････ レベルゲージ中央迄**



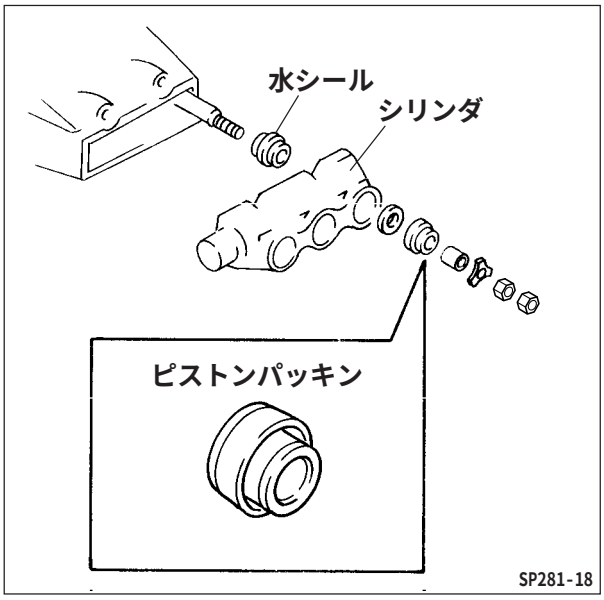




調圧レバーの周り

（使用時期前に行なってください。）

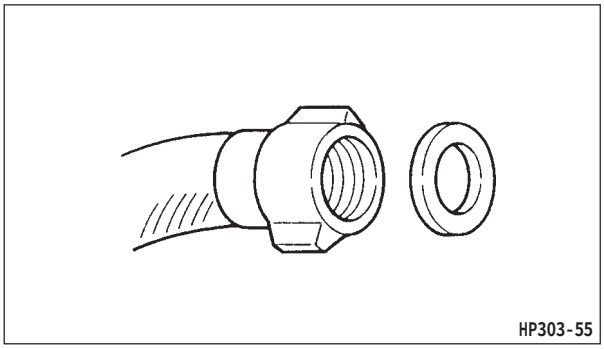
オイラで給油してください。



ピストンパッキン・水シール

長時間使用し、吸水しなくなったり、圧力が上がらなくなったときはピストンパッキン・水シールが摩耗している可能性があります。シリンダを外し、ピストンパッキン・水シールを交換してください。

重　要
ピストンパッキンおよび水シールの交換のときに、向きを間違えないようにしてください。



継手パッキン

（毎年、使用する前に点検してください。）

点検し、損傷、摩耗していたら交換してください。

故障対策

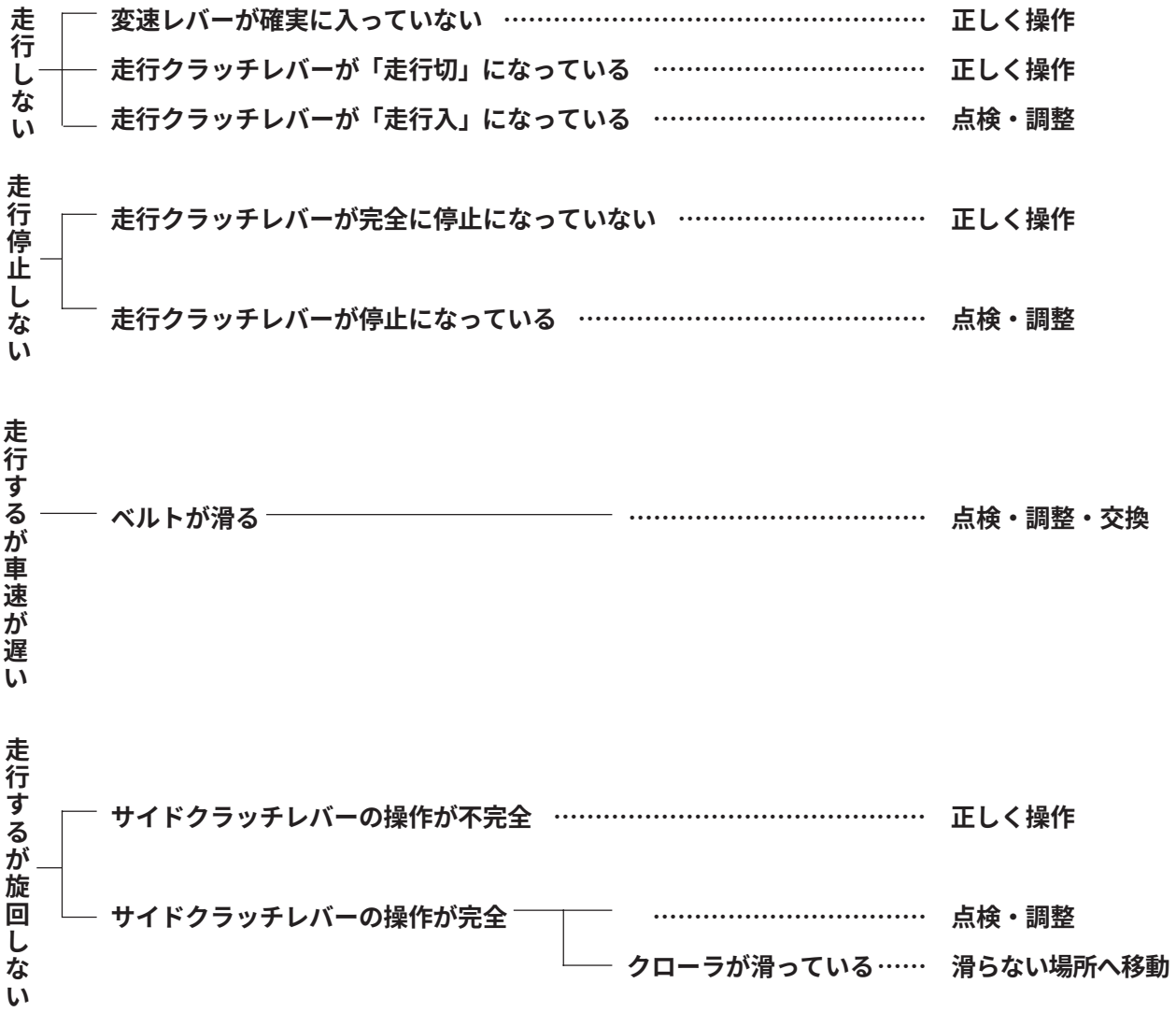
クローラスプレーヤを防除時期に満足に使用していただくためには、いつも点検・整備を忠実にしていただくことです。万一運転不調を生じた場合は、次の故障探求表によって順次調べるようにしてください。ご不明の点または正常に作動しない場合は、お買い求めの販売店にご相談ください。
（☆印は販売店での調整がのぞましいもの）

故障探求表

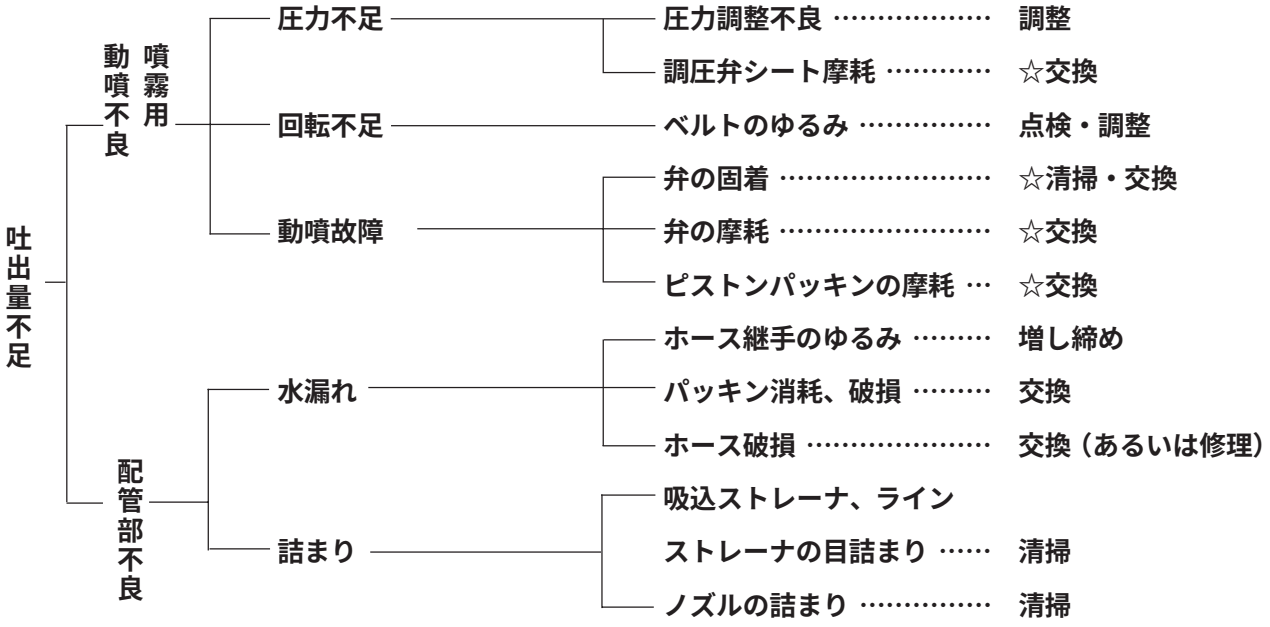
・エンジン関係

エンジンが始動しないまたは困難	リコイルが引けない	エンジンの焼き付き ……	☆修理・交換
		異物のかみ込み ……	☆清掃・交換
	リコイルが引ける	燃料タンクに燃料がない ……	補給
		燃料コックが閉じている ……	正しく操作
		気温が低い ……	チョークを「閉」にする
		エンジンストップスイッチが「運転」になっていない ……	正しく操作
		走行クラッチレバーが「走行切」または駐車ブレーキ「入」になっていない ……	正しく操作
		緊急停止停止スイッチが「停止」になっている…	「復帰」にする
	エンジンは始動するが回転が続かない	低速回転の調整不良 ……	調整
		燃料に水またはゴミの混入 ……	清掃
		チョークレバーが「閉」になっている ……	正しく操作
エンジン出力不足	スロットルが全開になっていない ……		正しく操作・調整
	吸入空気量の不足	チョークレバーが完全に「開」になっていない…	正しく操作
		エアクリーナの汚れ ……	清掃・交換

・走行関係


走行しない
変速レバーが確実に入っていない …… 正しく操作
走行クラッチレバーが「走行切」になっている …… 正しく操作
走行クラッチレバーが「走行入」になっている …… 点検・調整
走行停止しない
走行クラッチレバーが完全に停止になっていない …… 正しく操作
走行クラッチレバーが停止になっている …… 点検・調整
走行するが車速が遅い
ベルトが滑る …… 点検・調整・交換
走行するが旋回しない
サイドクラッチレバーの操作が不完全 …… 正しく操作
サイドクラッチレバーの操作が完全 …… 点検・調整
クローラが滑っている…… 滑らない場所へ移動

・薬液散布関係


吐出量不足
噴霧用
動噴不良
圧力不足
圧力調整不良 …… 調整
調圧弁シート摩耗 …… ☆交換
回転不足
ベルトのゆるみ …… 点検・調整
動噴故障
弁の固着 …… ☆清掃・交換
弁の摩耗 …… ☆交換
ピストンパッキンの摩耗 … ☆交換
配管部不良
水漏れ
ホース継手のゆるみ …… 増し締め
パッキン消耗、破損 …… 交換
ホース破損 …… 交換（あるいは修理）
詰まり
吸込ストレーナ、ライン
ストレーナの目詰まり …… 清掃
ノズルの詰まり …… 清掃

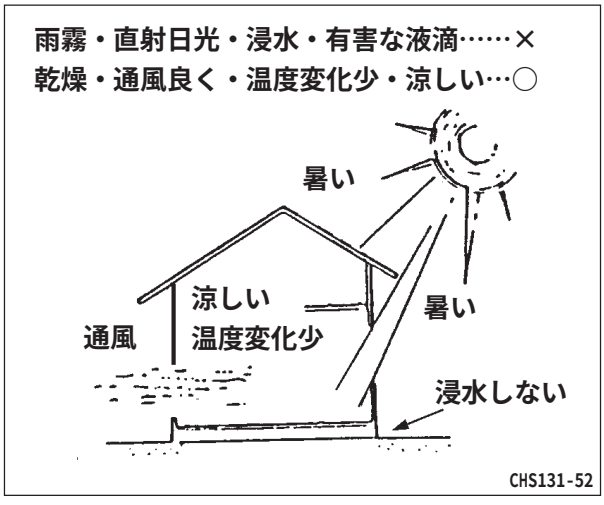
長期格納整備

格納整備（年間整備）

本年の散布作業が終了して、来年使用されるまでの遊休期間中に本機の分解、清掃、修理整備を行なっておき、来年の散布作業が支障なくできるようにしておきましょう。
格納整備は販売店にご相談ください。

● 格納整備の実施については使用状況により相違がありますが、通常次の項目に大別されます。

- エンジン
  本機からエンジンを降ろしてオーバーホールし、不良個所は修理し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。
- 噴霧用動噴
  機体から動噴を降ろしてオーバーホールし、不良個所は整備し、清掃・点検・調整が細部にわたって行なわれます。
- 薬液配管
  薬液配管の外傷、へたり、漏れなどがないか調べます。
- Ｖベルト
  Ｖベルトの外傷、へたり、摩耗がないか調べます。
- 走行部
  駆動部分、ブレーキ、クラッチなどの摩耗、ゆるみなどを調べます。車体に腐触が多い場合、再塗装します。



● 整備後の長期格納保管には、次の処置を取りましょう。

- 燃料タンク内の燃料を完全に排出します。
- 配管内の水を完全に排出します。
- 薬液タンクのフタ、薬液タンクドレンのフタは開いておきます。
- 金属表面の出ている所は、油布で軽く表面を拭いておきましょう。
- 保管は風通しの良い、湿気の少ない場所へ防塵カバーを掛けて格納します。

●製品や部品を廃棄するときは、お買い求めの販売店に相談するか、自治体の指導に従ってください。

仕　様

項　目		単 位	ＣＨＳ３６０	ＣＨＳ５６０
寸法（長さ×幅×高さ）		mm	1810 × 690 × 1385	1810 × 870 × 1385
質　　量		kg	240	255
薬液タンク容量		L	350	500
エンジン	型　式	―	４サイクルガソリン　GB180	４サイクルガソリン　GM231
	出力（最大／定格）	kW(PS)	4.6/3.4 (6.3/4.7)	5.1/3.7 (7.0/5.0)
	燃料タンク容量	L	3.6	4.5
走行	前進低速	km/h	Ｌ１＝1.5　　Ｌ２＝2.7	
	前進高速	km/h	Ｈ１＝1.9　　Ｈ２＝3.5	
	後進低速	km/h	Ｌ１＝1.5　　Ｌ２＝2.7	
	後進高速	km/h	Ｈ１＝1.9　　Ｈ２＝3.5	
	クローラ外幅	mm	690	
	接地長	mm	748	
	操向方式	―	サイドクラッチ	
	変速方式	―	ギア選択	
	クラッチ形式	―	ベルトテンション	
動力噴霧機	型　式	―	ＳＰ４５１　３連ピストンポンプ	
	吸水量	L/min	33	
	回転数	rpm	900	
	圧力（最高）	MPa（kgf/cm²）	2.5（25）　※アタッチメントノズルにより変動します。	
アタッチメントノズル		―	CNK2　（二本桿 14 頭口・キュウリ用） CNA2　（二本桿 12 頭口・アスパラ用） CN1　（一本桿 10 頭口） CN2　（二本桿 10 頭口） CNM12（ムカデノズル 12 頭口）	
送水ホース		―	内径φ 8.5　金具ＰＦ 1/4	

仕様は製品改良のため、予告なしに変更する場合があります。

株式会社やまびこ

〒198-8760 東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6181

やまびこ北海道株式会社
〒004-0041　北海道札幌市厚別区大谷地東 1-2-20　　Tel 011-891-2249（代）

やまびこ東北株式会社
〒984-0002　宮城県仙台市若林区卸町東 5-1-50　　Tel 022-288-0511（代）

やまびこ東部株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-1091（代）

やまびこ中部株式会社
〒452-0031　愛知県清須市西枇杷島町宮前 1-39　　Tel 052-502-4111（代）

やまびこ西部株式会社
〒701-0221　岡山県岡山市南区藤田566-159　　Tel 086-296-5911（代）

やまびこ九州株式会社
〒816-0943　福岡県大野城市白木原 5-3-7　　Tel 092-573-5361（代）

やまびこレンテックス株式会社
〒198-0025　東京都青梅市末広町 1-7-2　　Tel 0428-32-6777（代）

ご用命の際はお買い上げいただいた販売店へご連絡ください。

X753-001 82 2
X753607-070 2　　1006l 1415 ES

© 2004 株式会社やまびこ　著作権法により無断での複製、転載などは禁止されております。